

信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**



セコム株式会社  
**CSRレポート2016**  
Corporate Social Responsibility Report

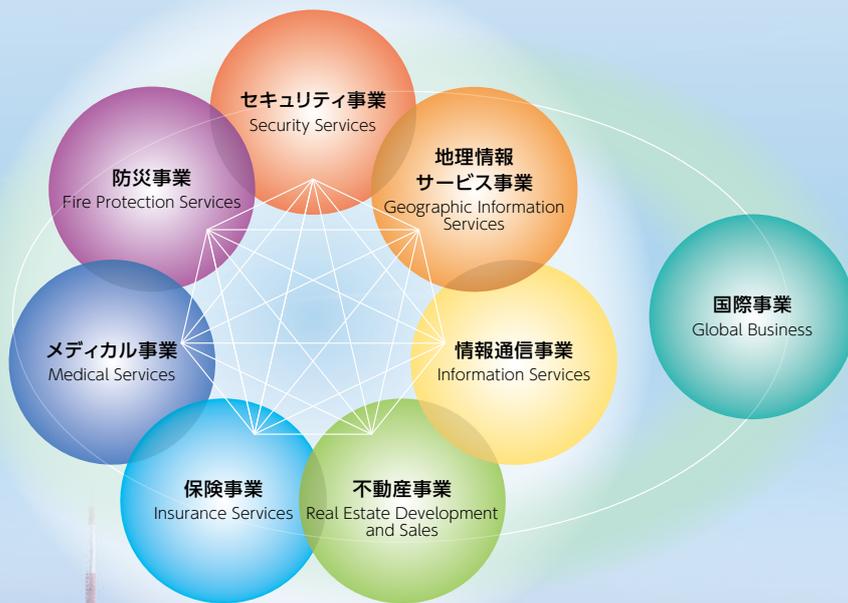


## 「社会システム産業」の構築をめざして

セコムは、1989年に「社会システム産業」の構築をめざすことを宣言し、その実現に向かって邁進しています。「社会システム産業」とは、社会で暮らす上で、より「安全・安心」で、「快適・便利」なシステムやサービスを創造し、それらを統合・融合させ、社会になくてはならない新しい社会システムとして提供するものです。

セコムグループ（以下セコム）の事業領域は、セキュリティ、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産事業と多岐にわたり、海外にも積極的に進出し、事業を展開しています。「社会システム産業」を構築するために、これらの事業のサービスを複合的に組み合わせた独自のシステムやサービスの開発・提供に取り組んでおり、いつでも、どこでも誰もが「安全・安心」で「快適・便利」に暮らせる社会の実現をめざしています。

### 社会システム産業



## Contents (目次)

- 目次、セコムグループのビジョン ..... 1
- 編集方針 ..... 2
- トップ対談 ..... 3
- セコムの理念 ..... 6
- 特集 CSRトピックス ..... 7
  - 社会課題への挑戦
  - 地球温暖化防止のために
  - 人財への取り組み
  - スポーツ競技の「安全・安心」な運営
- セコムのCSR ..... 11
- 戦略的CSR ..... 13
  - ～社会課題の解決に向けて～
  - セキュリティ
  - 超高齢社会
  - 災害・BCP・環境
- 基盤的CSR ..... 17
  - ～社会から信頼される企業として～
  - お客様とともに ..... 17
    - 〈消費者課題〉
  - 社員とともに ..... 19
    - 〈人権・労働慣行〉
  - 地球環境とともに ..... 23
    - 〈環境〉
  - 地域・社会とともに ..... 27
    - 〈コミュニティへの参画及びコミュニティの発展〉
  - コーポレート・ガバナンス ..... 29
    - 〈組織統治・公正な事業慣行〉
- セコムのCSRに期待すること ..... 32
  - ～社外取締役メッセージ～
- セコムグループの概要 ..... 33

# 編集方針

社会への説明責任を果たすため、2009年から「環境報告書」を、2013年からは「CSRレポート」を発行しています。

今年の「セコム株式会社 CSRレポート2016」は、セコムのCSR（企業の社会的責任）を“CSRトピックス”、“社会課題を解決する戦略的CSR”、“信頼構築のための基盤的CSR”※1という3つの切り口からまとめています。また、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されたことを踏まえ、セコムの取り組みでSDGsに関連する箇所には、SDGsのアイコンを示しました。（詳細は、6ページをご参照ください）

セコムのCSRの詳細と各種データは、セコムのWebサイト「CSRの取り組み」※2に掲載しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。

ステューワードシップ・コードの策定、コーポレートガバナンス・コードの制定を受けて一段と高まる情報開示の必要性・要請を踏まえ、これからもわかりやすくタイムリーな情報発信に努めていきます。

※1：基盤的CSRについては、社会的責任に関する国際規格ISO26000で示される7つの主要課題に沿って記載しています。

※2：Webサイト「CSRの取り組み」  
<http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/>

## ■ 報告対象期間

2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）  
一部、この期間前後の取り組みも含まれます。

## ■ 報告対象組織

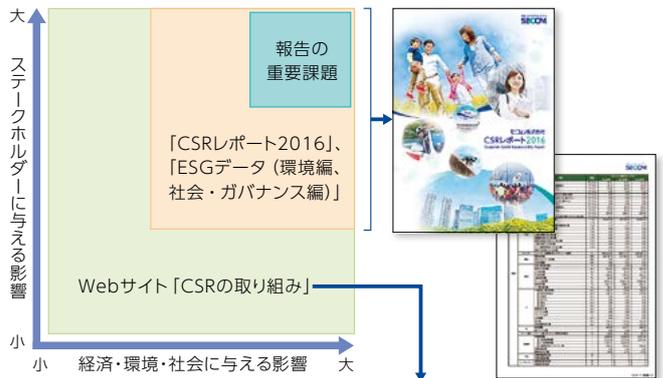
セコム株式会社

※「セキュリティ事業グループ」と表示している場合は、33ページ下段の26社です。また、「セコム」「セコムグループ」と表示している場合は他の事業会社を含めています。

## ■ 発行時期

2016年10月（次回：2017年10月）

## セコムのCSR報告



URL：<http://www.secom.co.jp/corporate/csr/report/>

## ■ 参考ガイドラインなど

- GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」：中核準拠
- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版（平成24年4月）」
- ISO26000/JIS Z 26000
- 国連「持続可能な開発目標（SDGs）」
- 国際統合報告（IIRC）フレームワーク

## ■ お問い合わせ先

### セコム株式会社

社会・環境推進部

TEL：03-5775-8518 E-mail：csr@secom.co.jp

コーポレート広報部

TEL：03-5775-8210 E-mail：media@secom.co.jp

## GRIガイドライン第4版の中核準拠と、報告の重要課題（マテリアルな側面）

GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版（以下G4）で提示されている46の側面に、経済・環境・社会や、ステークホルダーの皆様と与える影響を照らして報告の重要課題を特定し、「中核」に準拠した報告書としました。

重要課題の特定に際しては、「重要性」「ステークホルダーの視点」「網羅性」の観点から定性的・定量的に分析を行って次の項目としました。

※詳しくは、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」との対照表をご参照ください。（Webサイトの「CSRレポート」ダウンロードページ）

### ● 報告の重要課題（括弧内は、G4に基づく側面と指標）

- 地球温暖化防止活動（大気への排出 EN15-19）
- くるまのエコ活動（輸送・移動 EN30）
- ダイバーシティの推進（多様性と機会均等 LA12）
- 労働安全衛生（労働安全衛生 LA8）

なお、「コンプライアンス」「高品質なサービス・商品の提供」「情報セキュリティ」などの重要課題は、G4の側面・指標にないまたは一致しないため、今回はG4の指標を開示しておりませんが、ステークホルダーの皆様とわかりやすく伝えるように留意し、報告しています。

※セコムのCSR活動の重要課題については、セコムのCSR（11、12ページ）をご参照ください。

# 「社業を通じ、社会に貢献する」 社会課題と、セコムのビジョン

セコム株式会社代表取締役社長の中山泰男が、日本のCSR/ESGの第一人者である後藤敏彦氏をお迎えし、世界の潮流や今後企業に求められる取り組みをテーマに意見を交わしました。

セコム株式会社 代表取締役社長

中山 泰男

特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム  
代表理事

後藤 敏彦氏



## 大きな時代の変革 メガトレンド

**後藤氏** 2015年9月の国連の「持続可能な開発目標（以下SDGs）」、12月の地球温暖化防止のための「パリ協定」で、世界のベクトルが大きく変わりました。つまり、「世界は無限」で「進歩と成長」をひたすら追い求めるという従来の考えにかわって、「世界は有限」で、その中で「サステナブルな発展（持続可能な開発）」を社会全体で考えなければならない、ということの世界各国が確認しあい、取り組むことを誓ったのです。

### 後藤 敏彦氏 プロフィール

環境監査研究会代表幹事、NPO法人社会的責任投資フォーラム最高顧問、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、認定NPO法人環境経営学会会長など。環境省事業である環境情報開示基盤整備事業検討会座長/環境コミュニケーション大賞検討会座長・審査委員/ Eco-CRIP事業検討会座長など複数委員会の座長・委員を務める。元大手損保会社勤務、元GRI運営委員・理事、東京大学法学部卒。

**中山** 企業を経営していく上で、本質的な潮流を常に意識しています。現在のメガトレンドとしては「地球温暖化」、「資源の枯渇」、そして「透明性」が重要で、このメガトレ

ンドを「チャンス」と捉え、レジリエント（強靱な）企業として経営戦略の大胆な舵取り、まさしく「ビッグ・ピボット（大転換）<sup>\*1</sup>」な経営をしていく必要があります。

**後藤氏** 企業が生き延びるためには、こうした世界の大きな方向性の変革を取り込み、長期を見据えたビジョンで方向性を示し、ロードマップを描くことが必要です。向こう数年の短中期目標だけでは社会の変革に取り残されてしまいます。

**中山** おっしゃる通り、企業としての大きな方向性を示すビジョンや長期目標が重要です。セコムでは「SDGs」や「パリ協定」、日本政府の「地球温暖化対策計画」を踏まえて温室効果ガス削減の2030年目標を策定し、取り組みを開始しました。また、2050年にあるべき姿に向かって、バックカスティングの思考で、さらなる削減に取り組んでいきます。

※詳しくは、8ページ、25ページの「地球温暖化防止の取り組み」をご参照ください。

## 「社業を通じ、社会に貢献する」 セコムのCSR



**中山** 企業にはさまざまな社会的責任の果たし方が求められていますが、セコムは企業の社会的責任（CSR<sup>\*2</sup>）を、基盤的CSRと戦略的CSRの2つに整理しています。基盤的CSRとは、社会から信頼を得るための取り組みで、企業活動の大前提となるリスク

マネジメントでもあります。一方、戦略的CSRは、さまざまな社会課題を解決するセコムの事業そのもので、現在「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」を重要課題として取り組んでいます。

**後藤氏** セコムの場合、事業そのものが社会貢献というイメージがありますね。具体的に最近どのようなことをされているのでしょうか？

**中山** 例えば「セキュリティ」では、民間防犯用として世界初となる飛行船やドローン、そして高精度な3次元立体地

図を警備計画等に活用する「セコム3Dセキュリティプランニング」を開発しました。今後ますます増えてくる国際会議やスポーツイベントなどで、広域をカバーする高次元のセキュリティを提供できるようになります。

「超高齢社会」では、お年寄りが自宅で安心して不便なく暮らしていけるよう、お困りごとをワンストップで解決するサポートサービス「セコム・マイホームコンシェルジュ」を東京都杉並区で開始。また、元気に外出も楽しめるように、屋内外を問わず対応する救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」も提供しています。

そして、「災害・BCP・環境」では、セコム飛行船による空からの災害時避難誘導、「セコム3Dセキュリティプランニング」の災害予測や被害状況把握への応用などの検討を進め、災害に強い街づくりなどに貢献していきます。

※戦略的CSRについては13～16ページを、基盤的CSRについては17ページ以降をご参照ください。

## レジリエント企業であり続けるために

**後藤氏** レジリエント企業としてさらに成長を続けるために、具体的にどのようなことをされていますか？

**中山** ピーター・D・ピーダーセン氏は、著書「レジリエント・カンパニー」の中でレジリエンスの高い企業の特徴として「アンカリング（企業としての拠り所）」、「自己変革力（自発的に変わり続けるための組織的能力）」、「社会性（社会と企業双方が利するベクトル設定）」を挙げています。これは、セコムが大切にしている「企業理念」や「組織風土」そのものですが、グループの全組織、全社員が今まで以上に意識し、実践しなければなりませんね。

**後藤氏** セコムの競争力の優位性は、人とITを活用したサービスのネットワークにあると思います。しかし、セコムがゼロから積み上げてきたことが、技術やAI（人工知能）の急速な発達など思いもよらない新たなイノベーションにより、実現されることもあるかもしれません。これまでセコムは未開の領域を独力で切り開いてきましたが、今後は外部の知識・情報・技術を取り入れて、うまく利用していくことも必要ではありませんか？

**中山** はい。外部との協働も大切なことですから、例えば、グループの資源・技術と社外の技術とアイデアを融合させて社会課題を解決する「セコムオープンイノベーション」という活動を昨年から行っています。また、地域の社会課題を解決するために渋谷区と2016年8月に締結した「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」、地域の

金融機関と企業の技術やアイデアとセコムのサービスや技術を融合させる事業共創プロジェクトを開始するなど、さまざまな取り組みを始めています。

※詳しくは、7ページの「社会課題への挑戦」をご参照ください。

## ESG投資の本格化と経営のあり方

**中山** 2016年10月、世界的に著名な環境NGOのCDPが行う気候変動への取り組み評価において、「Aリスト<sup>\*3</sup>」認定を得ました。「Aリスト」に認定されたのは、日本の大手企業500社の中で22社、サービス業ではセコム1社でした。「環境基本理念」「環境基本方針」にのっとった長年の地道な活動と情報開示の取り組みが実を結びました。

**後藤氏** すばらしいことですね。取り組みと情報開示は、非財務面から企業価値を向上させるための両輪ですが、非財務面を問わずESG<sup>\*4</sup>情報開示の重要性が急速に高まっています。私は環境省が進める「環境情報開示基盤整備事業」に関わっています。企業の環境情報を機関投資家に提供し、投資に活用してもらうための情報基盤を構築する取り組みですが、企業価値を向上させるために、より戦略的な取り組みと積極的な情報開示が必要な時代になりつつあることの一つの具体例でしょう。

**中山** 財務情報は結果・成績にしか過ぎず、企業の正しい姿や将来を考える上ではESG情報が欠かせません。現在、企業価値を正しく理解・評価するためには、財務情報

とESG情報をまとめて報告する統合報告や、そのベースにある統合思考が必要不可欠と考えられています。



**後藤氏** 日本は、ESG情報を投資判断に活用するESG投資<sup>\*5</sup>が、欧米に比べて周回遅れだと言われていましたが、2015年の日本版スチュワードシップ・コード<sup>\*6</sup>とコーポレートガバナンス・コード<sup>\*7</sup>の策定や、世界最大の機関投資家であるGPIF<sup>\*8</sup>がESG投資を本格

化する動きをきっかけとして、日本企業のCSRの取り組みとESG情報開示はますます促進され、機関投資家などのコミュニケーションも活性化することでしょう。

**中山** 「利益は後からついてくる」「三方よし」という言葉にあるように、企業が社会課題を見いだして解決し、社会に役立った結果として利益が出る。ESG投資を重視する現在の流れは、こうした日本の本来の経営に再び立ち返るきっかけにもなるはずです。本日は、貴重なお話をありがとうございました。



- \*1: ビッグ・ピボット…アンドリュー・S・ウィンストン氏の著書「ビッグ・ピボット」において、先の見えない経営環境のもとであっても、より本質的な潮流を読み取り、正しい方向に経営の舵を切りなおすことができるとされている。
- \*2: CSR…Corporate Social Responsibility
- \*3: Aリスト…気候変動対応について、①情報開示（現状の把握）②認識（気候変更の影響）③マネジメント（気候変動リスクや影響の管理）④リーダーシップ（戦略的対応と課題の解決）の観点から評価され（A～D）、最高のA評価を得た団体が「Aリスト」として認定される。
- \*4: ESG…E：環境（Environment）、S：社会（Society）、G：企業統治（Governance）
- \*5: ESG投資…ESG（環境・社会・企業統治）への取り組みに対する評価の高い企業へ投資すること。
- \*6: 日本版スチュワードシップ・コード…イギリスの「スチュワードシップ・コード」を参考に、金融庁が策定したもので、機関投資家が、投資先企業の持続的成長に貢献するよう、その事業内容や企業統治に関する対話を適切に行うことなどを求めている。
- \*7: コーポレートガバナンス・コード…金融庁・東証が制定した上場企業の企業統治の指針。
- \*8: GPIF…年金積立金管理運用独立行政法人。ESG投資の推進の一環として、2015年9月に国連責任投資原則（PRI）に署名。世界最大の機関投資家。

## セコムの理念

セコムには、社員が常に生き活きとし、組織の力を十分に発揮できるようにするために、創業以来脈々と受け継がれている理念や考え方があります。

代表的なものは、進歩に対する意欲を持ち、現状を打破することで独創的なシステムやサービスを創出する「現状打破の精神」、セコムにとってではなく社会にとって正しいか、公正であるかを判断基準にする「正しさの追求」で、これらの理念の浸透が、セコムの成長・発展の大きな原動力となっています。

また、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様からの信頼をいただくために、セコムでは法ならびに法に精神を遵守し、法令で一般に定めるものよりさらに厳しい、セコム社員としての心得および行動基準を定めています。

### ■ 「セコムの事業と運営の憲法」

セコムの基本理念である「社会に有益な事業を行う」を常に考える根拠にすえて事業を行っていくために、セコムグループが実施すべき事業方針を定めています。

### ■ 「運営基本10カ条」

「セコムの事業と運営の憲法」を土台として、セコムが「社会システム産業」として発展をするために、そして組織の風土が常に革新的であり、濁りのない清冽なものであり続けるために、あるべき考え方、あるべき姿を、運営の基本方針として定めています。

### ■ 「セコムの要諦」

1962年の創業以来培われたセコムの行動原理を基盤として、セコムグループの発展と社員の人的成長を達成するための共通の理念を定めています。

### ■ 「セコムグループ社員行動規範」

「セコムの事業と運営の憲法」「セコムの要諦」とともに、コンプライアンスの面からみて、いつの時代にも通用する普遍性を持つものとして制定されました。「セコムグループ社員行動規範」には、セコムグループすべての社員のあるべき姿およびあらゆる業務の根底にあるコンプライアンスに関する考え方が規定されており、社会、お客様、お取引先などとの関係における心得や具体的に遵守すべき行動基準が明記されています。

## 社会課題とセコムのCSR ～持続可能な開発目標 (SDGs) ～

2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」で、2030年までに地球規模で解決すべき「持続可能な開発目標 (SDGs)」が全会一致で採択されました。この目標を達成することが、政府・研究機関・企業・市民社会などのあらゆるセクターに求められています。

セコムは、創業以来「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念のもと社会課題の解決に取り組んでおり、本レポートでは、SDGsの各目標に関連する取り組みにSDGsのアイコンを示しています。



# CSRトピックス ～持続可能な社会のために～

2015年9月、国連総会で2030年までの「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択され、12月には、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議 (COP21)で、地球温暖化防止のための「パリ協定」が採択されました。地球を取り巻く社会課題に、政府・研究機関・企業・市民社会など、それぞれがより積極的に協働して取り組むことが求められています。

持続可能な社会を構築するためのセコムの取り組みを、「社会課題への挑戦」「地球温暖化防止」「人財への取り組み」「スポーツ競技の安全・安心な運営」という4つの切り口からご紹介します。

## 社会課題への挑戦 ～パートナーシップ、協働の加速～



「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」共同記者発表会



「ジャパン・レジリエンス・アワード」表彰式

セコムは、事業を通じた社会課題の解決に向けてグループ各事業の総力を結集し、情報や目標を共有してきました。さらに社会課題の解決を加速させるために、国や自治体、企業、NGOなどとも連携しています。

### ■ 渋谷区と「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結

2016年8月、渋谷区とセコムは、防災をはじめとするさまざまな社会課題を一体となって解決する「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結しました。本社所在地である渋谷区と広範な分野で協力し、渋谷で暮らす・働く・遊ぶなど関係するすべての方々にとって一層魅力的な区になるよう地域社会に貢献していきます。

#### 協働して取り組む、地域社会的課題 (渋谷区との共同発表内容)

1. 安全かつ防災に強い都市づくり推進領域における支援
2. 超高齢社会に向けた健康増進領域における支援
3. ファシリティマネジメント領域における支援
4. 2020オリンピック・パラリンピック気運醸成に関する支援
5. 多様性社会 (ダイバーシティ) の実現に関する啓発活動への支援
6. その他の支援

※セコムは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会オフィシャルパートナー (セキュリティサービス&プランニング) です。

### ■ セコムのオープンイノベーション ～社会課題に協働して、挑む～

2015年11月、セコムグループの持つ資源や技術と社外のビジネスパートナーの技術やアイデアを融合させて、社

会課題を解決する高付加価値なサービスの創造を担う「オープンイノベーション推進担当」を設置しました。アイデアや最新技術を有する企業・専門家とのワークショップ「セコムオープンラボ」を開催するなど、外部との戦略的な協働を図り、社会の多様化するニーズに応える「新サービス創出」に取り組んでいます。



社会課題を題材にした「セコムオープンラボ」



情報発信サイト「セコムオープンイノベーション」

### ■ ジャパン・レジリエンス・アワード 「最優秀レジリエンス賞」を受賞

2016年3月、次世代に向けた“強靱化 (レジリエンス) 社会”の構築に向けた防災・減災の先進的な活動を表彰する「第2回 ジャパン・レジリエンス・アワード」において、「セコムグループの災害情報サービスの拡充の取り組み」が最優秀レジリエンス賞を受賞しました。これは、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が主催し、災害に強い国土、地域、人、産業づくりに貢献する活動や技術開発、製品開発などを評価し表彰する制度で、昨年度に続き2年連続で入賞しました。

# 地球温暖化防止のために



「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」

「低炭素杯2016」の参加者とプレゼンテーション

COP21での「パリ協定」の採択、ならびに2016年5月の日本政府の「地球温暖化対策計画」を踏まえ、新たな温室効果ガス削減目標を策定し、継続的な削減に取り組んでいます。

## ■ 中長期目標の策定（2016年5月）

COP21で採択された「パリ協定」では、世界の平均気温上昇を2℃未満に抑えるために、世界196の国と地域が温室効果ガス排出削減に合意しました。

そして、日本政府の「地球温暖化対策計画」では、温室効果ガス排出を2030年度に26%削減し、2050年までに80%の削減をめざすことが示されました。

こうした動向を踏まえ、セコムでは世界的な視点からあるべき目標を設定する「アウトサイド・イン・アプローチ」の考え方に基づき、従来の削減目標に加えて、セキュリティ事業グループの新たな2030年中期目標を策定。さらに2050年に向けて、セコムグループ全体で温室効果ガス排出の大幅削減をめざします。



## ■ 2年連続「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞

「平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)」を受賞。これは、地球温暖化防止への顕著な功績をたたえる表彰で、全国事業所での「オフィスのエコ」活動とその成果が認められ、2014年度に続き2年連続の受賞となりました。

## ■ 「低炭素杯2016」で「ファイナリスト賞」を受賞

優れた地球温暖化対策活動を表彰し、その内容を広めることで、活動の促進を図る「低炭素杯2016」で、セコムの取り組む「くるまのエコ ～ハード・ソフトの両面作戦～」が「ファイナリスト賞」を受賞しました。

## ■ 国際的な環境NGOのCDPから、「気候変動情報開示先進企業」として選定

2015年11月、イギリスに拠点を置く国際的な環境NGOのCDPによる、日本の大手企業500社の気候変動への取り組みの調査報告書「CDPジャパン500気候変動レポート2015」において、セコムはディスクロージャースコア（課題認識と取り組み、情報開示度の評価）で100点満点という極めて高い評価を受け、「気候変動情報開示先進企業（CDLI）」に選定されました。



ディスクロージャーリーダー

# 人財への取り組み



全国から集結した「女性の活躍推進担当」たちへの研修（女性の活躍推進委員会主催）



グローバルで行われる「システム行動コンテスト」

「組織の力は社員個々の力の総和」という考えのもと、ダイバーシティの推進、人財育成、社員が生き生きと働くための基盤となる健康増進に取り組んでいます。

## ■ 女性の活躍推進

日本社会が取り組むべき喫緊の課題「女性の活躍推進」。セコムは、2013年にトップ・コミットメント「女性の活躍推進宣言」を行い、専門セクション「女性の活躍推進委員会」を設置しました。

委員会は、職種・年齢・役職問わずさまざまな立場から選出された女性社員で構成され、女性社員がさらに活躍するための課題について議論を行い、全社員の意識改革を図るためにパネルディスカッションや男性幹部社員との座談会、啓発Webサイトの運営やメールマガジンの発行を行っています。

また、課題である、「管理職に占める女性の割合が低いこと」「女性の平均勤続年数が男性に比べて短いこと」を解決するために、2016年3月に行動計画を策定し、取り組みを開始しました。

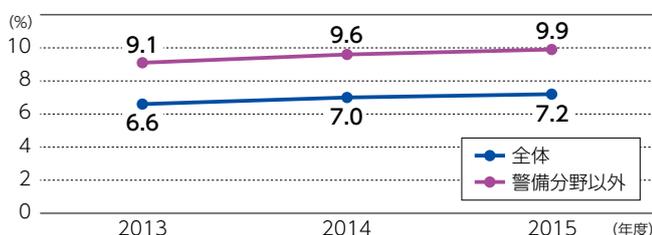
### 女性の活躍推進目標 (2016/3/1～2021/3/31)

- ・警備スタッフ\*<sup>1</sup>以外の分野において、新しい女性役職者\*<sup>2</sup>を30名以上誕生させる
- ・仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組み、女性の平均勤続年数を延ばす
- ・女性の活躍に関する意識調査アンケートにおいて、「自分は活躍できている」と回答する女性社員の割合を向上させる

※1：「警備業法」で定められた研修を受けて警備業務に従事するセキュリティ事業スタッフ

※2：給与において役職に対する手当が支給されている者

### 女性役職者比率の推移 —セコム(株)—



## ■ グローバルでの社員教育

海外でも、日本と同じように最高水準のサービスを提供するためには、マニュアルや規則どおりに業務を行えばよいのではなく、「なぜそうするのか」という基本的な考え方を社員一人ひとりが理解して取り組むことが重要です。そのため、基本的考え方や行動原理である「セコムの理念」、心得や行動基準を示した「セコムグループ社員行動規範」を各国の言語に翻訳し、浸透を図っています。

さらに経営幹部や赴任者に対しては、各国の実状に応じた法令遵守や賄賂の禁止、情報管理など、コンプライアンスについてのさまざまな研修を行っています。

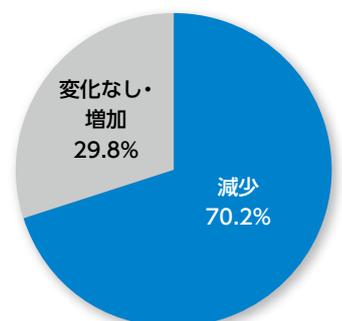


各国での研修

## ■ 社員の健康増進 ～特定保健指導～

生活習慣病の発病リスクが高い社員の生活習慣見直しを支援する「特定保健指導」を2008年から開始し、2015年から対象者全員が指導を受けられるようにサービス体制を拡充しました。対象社員は保健師と面談し、生活習慣改善のための計画を作成して6か月間取り組みます。2015年度は95%の社員が最後まで取り組み、そのうち7割が体重減少などの成果を出すことができました。

### 体重の変化 (修了者)



# スポーツ競技の「安全・安心」な運営



参加ランナーの「安全・安心」を見守った「東京マラソン」

箱根駅伝での沿道警備

ラグビー男子日本代表

スポーツ競技の協賛を通じて、スポーツ競技の発展に寄与するとともに、「安全・安心」に開催・運営されるようにセキュリティ面でも協力しています。

## ■ 「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」にオフィシャルパートナーとして協賛

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にオフィシャルパートナー（セキュリティサービス&プランニング）として協賛しています。1964年に開催された東京オリンピックでは、当時まだ創成期だったセコムが選手村の警備を担当し、社会から高い評価と信頼をいただきました。あの日と変わらぬ想いを胸に、セコムは東京2020大会でも「安全・安心」に貢献します。



東京2020 オフィシャルパートナー（セキュリティサービス&プランニング）

## ■ 各種スポーツへの協賛

セコムは、東京2020大会への気運の盛り上げや、各種スポーツの発展・振興に貢献しています。具体的には、東京マラソンや箱根駅伝、さいたま国際マラソンなどの長距離競技やラグビー男子・女子日本代表（15人制・セブンズ）、スーパーラグビーのサンウルブズへの協賛に加え、セーリングや馬術など多様なスポーツに協賛しています。また、体に障がいのある方とない方がオリンピック、



ラグビー女子セブンズ日本代表

パラリンピアンと一緒に東京2020大会の舞台となるお台場でウォーキングを楽しむジャパンウォークにも協賛し、「心のバリアフリー」にも取り組んでいます。

## ■ スポーツイベントのセキュリティ対策

2013年4月に米国・ボストンマラソンで発生したテロ事件（3人死亡、282人負傷）は、世界的に大きなニュースとなりました。マラソン・駅伝などの長距離競技大会のコースは一般道を使用し、沿道には多くの応援者が見守るため、この事件を契機に、国際競技や大規模なスポーツ競技の大会では、選手の安全はもちろんのこと、関係者や観客の安全確保、そして大会の安全運営が強く求められるようになりました。

2016年2月に開催された、「東京マラソン2016」では、民間防犯用で世界初の「セコム飛行船」「セコム・ドローン検知システム」を配備。警察と連携し、フィニッシュ付近の異常や不審ドローンなどの早期発見、早期対処に努めました。さらに、顔画像で本人確認を行う「ナンバーカード認証システム」や「ウェアラブルカメラ」を装備した常駐警備員を配置するなど、最新のセキュリティシステムを提供し、「安全・安心」な大会運営に貢献しました。

また、日本の正月の一大イベントである箱根駅伝においても、のべ1,000人以上の常駐警備員が全区間の警備にあたりました。

今後もセコムは、独自の技術力・開発力を活かした画期的なセキュリティシステムの提供や訓練を積んだ警備員の

対応でスポーツイベントの「安全・安心」な開催・運営に貢献していきます。



セコム飛行船  
※東京マラソン時に飛行



ウェアラブルカメラ

# セコムのCSR<sup>\*1</sup>

セコムでは、事業を通じて社会課題の解決を図る取り組みを「戦略的CSR」、社会からの信頼構築の土台となるESG<sup>\*2</sup>課題への取り組みを「基盤的CSR」と定義し、それぞれに取り組んでいます。

\*1: CSR…Corporate Social Responsibility    \*2: ESG…E: 環境 (Environment)、S: 社会 (Society)、G: 企業統治 (Governance)

## CSRの考え方と特徴

「企業と社会が共に持続的に発展することが重要である」との考え方を根底において、創業以来、事業を通じたCSRを実践しています。

「社業を通じ、社会に貢献する。」  
「社会に貢献する事業を発掘、実現しつづける責任と使命を有する。」  
「常に革新的でありつづける。」

(「セコムの事業と運営の憲法、運営基本10カ条」より)

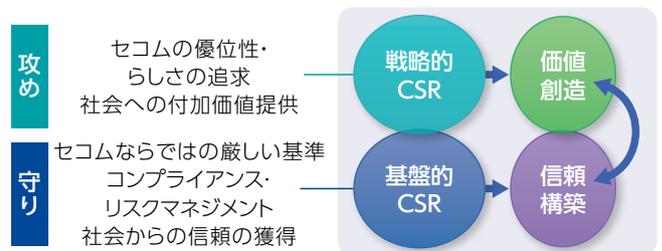
セコムがめざす、“いつでも、どこでも、誰もが「安全・安心」で「快適・便利」に暮らせる社会”の実現のために、セコムグループが実践すべき事業方針を「セコムの事業と運営の憲法」に定めています。さらに、社員一人ひとりが企業理念を日々の業務活動において実践するための行動基準として「セコムグループ社員行動規範」を定め、あらゆる活動に関連させて、その浸透を図っています。

「日本のCSR経営元年」といわれる2003年から十数年を経て、企業と社会の持続的成長のためにCSRを能動的に経営戦略に組み込む“CSV”<sup>\*3</sup>の考え方が本格化してきましたが、創業以来、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいるセコムの事業活動は、事業を通じたCSR・CSVの実践そのものです。

一方、企業が社会から信頼を得て、持続的に成長するために、企業として当然果たさなければならない責任や、積

極的に取り組むべき事項があり、コンプライアンス、リスクマネジメント、環境といったさまざまな社会課題に対応することもCSRです。

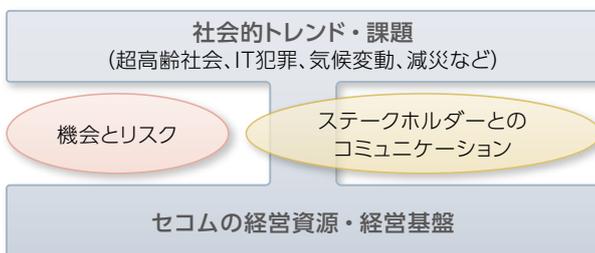
こうしたCSRの取り組みについて、事業を通じて社会課題を解決する“攻め”の取り組みを「戦略的CSR」、企業として社会から信頼を得るための“守り”の取り組みを「基盤的CSR」と定義しています。



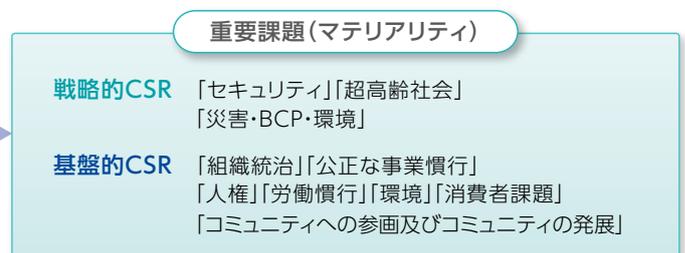
\*3: CSV…Creating Shared Value (企業と社会の共有価値創造)

## セコムの重要課題 (マテリアリティ)

CSRを推進するにあたり、セコムでは、さまざまな社会課題を抽出したのち、経営資源、ステークホルダーの皆様からのご意見やご期待に照らして、重要課題を整理しています。



「戦略的CSR」の重要課題は、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」で、競争力の源泉となる「技術力」「人財」「オペレーション・コントロール体制」、事業インフラの中核拠点である「データセンター」などの経営基盤



を最大に活かして、“ALL SECOM” でさまざまなサービス・商品を創出しています。

また、「基盤的CSR」については、ISO26000が定める中核主題\*4なども参考とし、創業以来培ってきた強力なコ

ンプライアンス体制のもと、さまざまなテーマに取り組んでいます。

\*4: 中核主題…社会的責任に関する国際規格のISO26000で示される“組織統治・公正な事業慣行・人権・労働慣行・環境・消費者課題・コミュニティへの参画及びコミュニティの発展”の7つの主要課題のこと。  
※CSRレポートの報告における重要課題は、2ページをご参照ください。



## 社会から信頼される企業であり続けるために

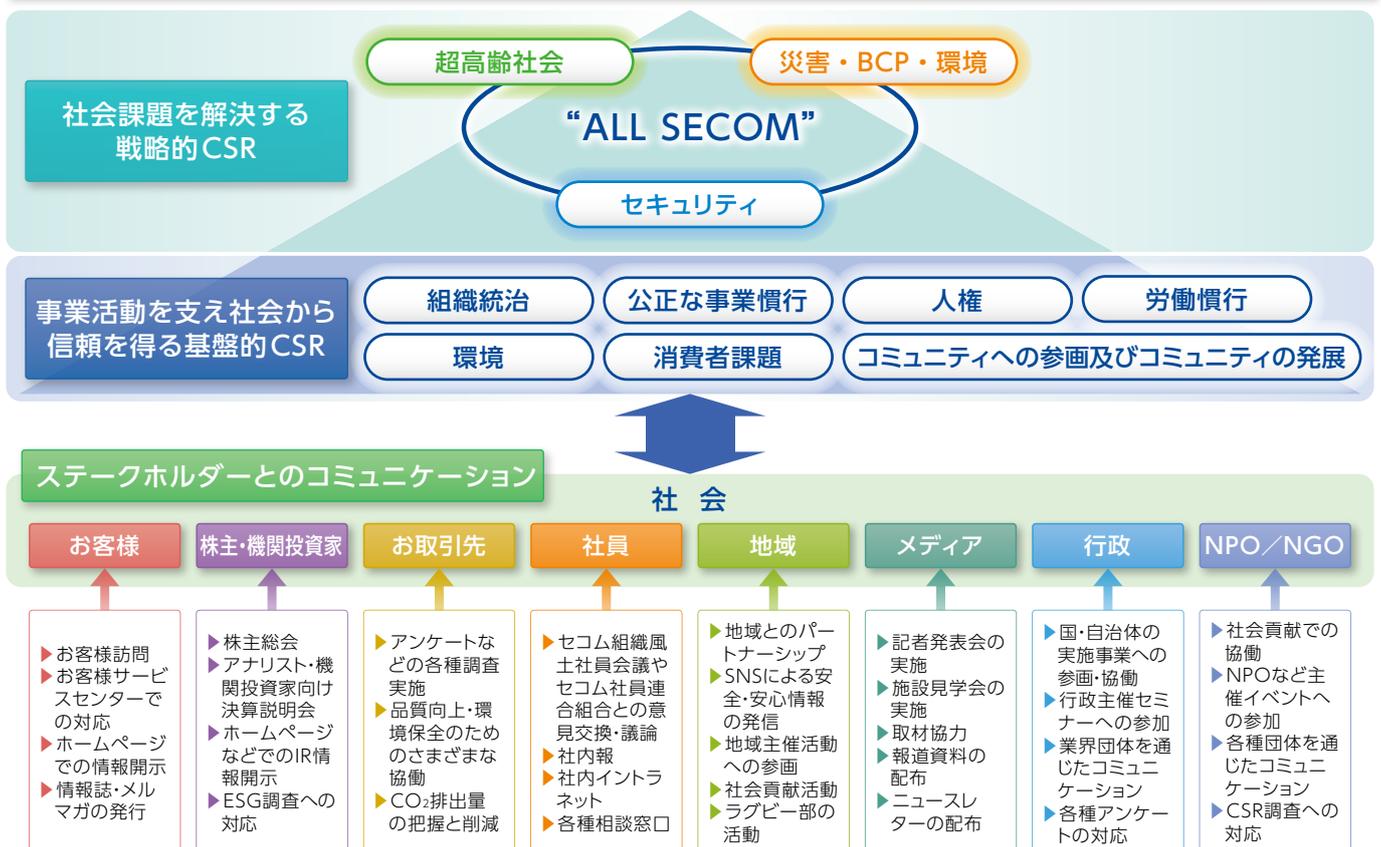
近年、企業の持続的な成長可能性や企業価値を判断する際に財務情報だけでなく、さまざまな社会課題への取り組みなどの非財務情報も重視し、中長期的な視点で評価する傾向が高まっており、GPIF\*5（年金積立金管理運用独立行政法人）のESG投資本格参入（2016年）などからも、その傾向がうかがえます。また、機関投資家に投資先企業との対話を促す「日本版スチュワードシップ・コード」（2014年金融庁）および、上場企業の企業統治の指針

である「コーポレートガバナンス・コード」（2015年金融庁・東証）が制定され、その精神にのっとった組織運営と情報開示が求められています。

セコムには、経営の土台となる明確な企業理念と、「社業を通じ、社会に貢献する」というミッションがあります。「安全・安心」「快適・便利」の社会インフラになるような、さまざまなサービスの創出に取り組むとともに、ステークホルダーの皆様とより一層緊密なコミュニケーションを図り、適切な情報開示に努めていきます。

\*5: GPIF…ESG投資の推進の一環として、2015年9月に国連責任投資原則（PRI）に署名。世界最大の機関投資家。

社会の困りごと、日常の不安を“ALL SECOM”で解決し、「安全・安心」で「快適・便利」な社会を実現



# 信頼される安心を、社会へ。 社会課題を解決する、戦略的CSR

セコムの競争力の源泉である、「人財」「技術力」「オペレーション・コントロール体制」と「ビッグデータ」を最大限に活用し、「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」の3つの分野で、社会課題の解決に取り組んでいます。



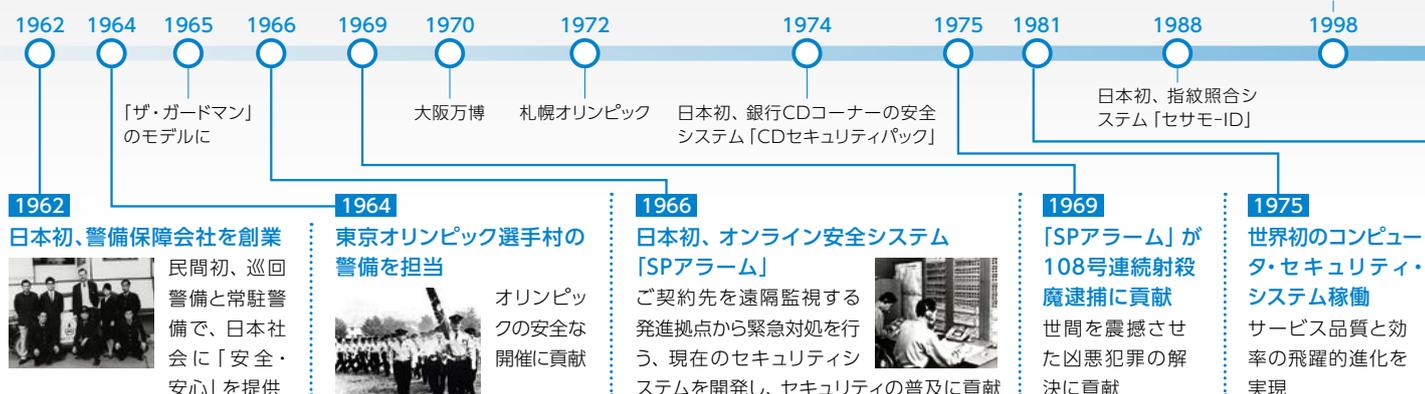
## セキュリティ

オフィス、家庭、パーソナル空間、そしてサイバー空間でも、誰もが安心して暮らせる社会の実現をめざします。

1962年、セコム創業当時は「水と安全はタダ」と思われていた時代でしたが、セキュリティ事業は「社会に貢献できる事業である」との確信を持ち、さまざまなサービス

を生み出してきました。そして、「日本のセキュリティを創ってきた」という強い自負のもと、「セコム」が「セキュリティ」の代名詞になるほどまで、広く一般に普及させたいという

## History Trail ～事業を通じた社会課題の解決～



強い想いを、「セコム、してますか?」というフレーズに込めました。

また、お客様の生命や財産を守るフィジカル（物理的）

セキュリティだけでなく、高度化・複雑化する情報通信社会に対応したサイバー（情報空間）セキュリティにおいても、さまざまなサービスを提供しています。

### 社会課題

- 強盗 犯罪 誘拐
- 泥棒 急病 迷子
- 火災 食品の異物混入
- 設備管理 情報流出
- 情報セキュリティ
- サイバー犯罪 テロ

---

### SDGs

1 貧困をなくそう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

16 平和と公正をすべての人に

### セコムのサービス体制と実績

あらゆる「不安」を解決して「安全・安心」を提供するサービスを、世界で展開しています



家庭向けセキュリティ  
契約件数  
**114万4千件**



法人向けセキュリティ  
契約件数  
**100万5千件**



セコムあんしんマイナンバー  
サービス契約件数  
**480万人 契約会社数 2,600件**



海外セキュリティ契約件数  
**76万1千件**



コントロールセンター  
全国**47**カ所



緊急発進拠点  
約**2,800**カ所



サイバー消防団※  
**24時間365日**  
(2016年3月末日現在)

※情報漏えいやウイルス感染の脅威に対し、すぐに駆けつけ対応を行う技術集団

## New Topics



### ■ 自律型小型飛行監視ロボット「セコムドローン」※、「セコム・ドローン検知システム」

「セコムドローン」は、民間防犯用として世界初の自律型小型飛行監視ロボットで、敷地内に異常が発生した場合、現場へ自動的に飛行して、不審車(者)の画像を撮影してセンターに送信し、不審車(者)の追跡・確保に活躍します。また、敷地内へのドローン侵入をレーザー、音、カメラ映像により検知する「セコム・ドローン検知システム」も開発。重要施設や大規模イベント会場での活用が期待されています。

※「ミライITアワード(日経BP社)」第1回総合グランプリ、「ベスト・オブ・ジャパン・ドローン・アワード2016」で応用サービス部門最優秀賞・オーディエンス賞を受賞



### ■ セコム飛行船

民間防犯用の飛行船として世界で初めて実用化。「東京マラソン2016」や「G7伊勢志摩サミット」で運用を開始し、搭載した高精細なパンチルトズームカメラで地上の状況を監視。2020年に向け、ますます増加する国際会議やスポーツ競技大会、大規模イベントなどで、空から広範囲の安全を見守ります。



### ■ 経済産業省・東京証券取引所による「攻めのIT経営銘柄2016」に選定

中長期的な企業価値の向上、競争力の強化等の観点から経営革新、収益水準・生産性の向上をもたらす積極的なITの利活用に取り組む企業として選定されました。世界初となるコンピュータ・セキュリティ・システムの開発(1975年)に始まり、近年では国内最大級のデータセンターを活用した新しいセキュリティサービスを提供しています。

日本初、センサー一体型防犯合わせガラス「SECOM あんしんガラス」

2001

日本初、家庭用安全システム(現セコム・ホームセキュリティ)

日本初のホームセキュリティシステムを提供



日本初、個人情報をお預かりする新型ホームセキュリティ「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」

2001

日本初、本格的な位置情報提供システム「ココセコム」

子ども、高齢者などの屋外の防犯に貢献



立体画像を使った顔認証システム「ウォークスルー顔認証システム」

2007

日本初、PFI刑務所を運営開始

更生と社会復帰を支援し、「安全・安心」な社会の構築に貢献

世界初、民間防犯用の自律型小型飛行監視ロボット「セコムドローン」

2015

最高基準の安全でマイナンバーをお預かりする「セコムあんしんマイナンバーサービス」

2015

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」オフィシャルパートナー(セキュリティサービス&プランニング)に決定



接近してくるドローンを検知する「セコム・ドローン検知システム」

2016

世界初、民間防犯用の飛行船「セコム飛行船」を東京マラソン2016で実用化



# 超高齢社会

「超高齢社会」から派生するさまざまな社会問題に対し、メディカルサービスを中心に、ALL SECOMでご高齢者とそのご家族に安心を提供しています。

世界に類を見ないスピードで進展する日本の超高齢化。セコムは、医療・健康・介護といったメディカルサービスを中心に、セキュリティ事業や地理情報サービス事業の事

業基盤を使った高齢者の屋内外での見守りなど、「超高齢社会」のさまざまな課題を解決するためのサービスを提供しています。

### 社会課題

病気 看護・介護 健康管理 生活支援  
医師・看護師不足 人口減少 保険

---

### SDGs

3 すべての人に健康と福祉を  
9 産業と技術革新の基盤をつくろう  
11 住み続けられるまちづくりを

---

### 高齢者（65歳以上）の割合推移

年	日本	アメリカ	ドイツ	韓国	イギリス
1950	~5	~10	~10	~5	~10
1960	~6	~11	~11	~6	~11
1970	~7	~12	~12	~7	~12
1980	~8	~13	~13	~8	~13
1990	~10	~14	~14	~10	~14
2000	~13	~15	~15	~13	~15
2010	~18	~16	~16	~15	~16
2015	~22	~17	~17	~18	~17

出典：平成27年国勢調査

### セコムのサービス体制と実績

超高齢社会の課題を見据え、グループ総合力で新たなサービスを創出

- セコム・メディカルサポートセンター  
24時間365日
- 提携病院 19病院
- セコム・マイドクタープラス  
24時間365日
- AED導入件数 15万8,000件
- シニアレジデンス 15カ所
- 訪問看護ステーション 33カ所 (2016年3月末日現在)

## New Topics



■ 地域密着、高齢者が自宅で暮らしていくためのサポート「セコム・マイホームコンシェルジュ」を開始  
「いつまでも住み慣れた自宅で暮らしていきたい」という高齢者の願いをかなえるサービスを、東京・杉並区にある久我山周辺地域で開始しました。「いつでも」「あらゆることに」対応する「暮らしの相談窓口」として、高齢者本人やその家族が抱える日常生活上のお困りごとを解決するために、他企業や自治体と連携し、「安全・安心」「快適・便利」な生活を送るためのサポートサービスを提供しています。



■ 日本初、病院マネジメント支援サービス「セコムSMASH」で、医療現場を支える  
医療費の抑制が大きな社会課題となる中で、医療機関には医療の質向上と同時に、病院管理の効率化とコスト削減が求められています。セコムが培ってきた病院運営支援、情報通信や地理情報サービス事業のノウハウを駆使し、セコム医療システム(株)では、診療実績データの分析からコンサルティングまで、経営の効率化や医療の質向上を図るサービスを提供しています。

## History Trail ～事業を通じた社会課題の解決～

- 1988 米国最大手の救急医療会社の運営を開始(1994年まで)
- 1991 日本初、本格的な在宅医療サービス
- 1992 東京都世田谷区の「社会福祉法人康和会久我山病院」の経営に参画
- 1994 日本初、遠隔画像診断支援サービス  
CT、MRIなどの画像診断をサポートし、医療の地域格差解消に貢献
- 1994 介護付き有料老人ホーム「サクラピア成城」の運営を開始
- 1996 日本初、がんを治すための自由診療保険「メディコム」
- 2001 日本初、食事支援ロボット「マイスプーン」
- 2002 日本初、レンタル方式のAED
- 2004 高齢者の暮らしをサポートする会員制サービス「セコム・マイホームコンシェルジュ」
- 2013 日本初、屋内外に対応の救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」  
高齢者や持病がある方に安心を提供
- 2013 病院マネジメント支援サービス「セコムSMASH」  
病院経営の効率化・医療の質向上に貢献
- 2014 インドに「サクラ・ワールド・ホスピタル」を開設  
高品質の医療サービス、効率的な病院経営を提供





消費者課題

社会から信頼される企業として



サービス品質向上のためのアイデアコンテスト発表会

# お客様とともに

セコムは「何を創るか」ではなく、「何のために創るか」という視点を重視しています。社会をより良く、人をもっと幸せにするには「何が必要か?」という社会に対する強い「想い」を抱き、その実践のために独自の取り組みを重ねています。

## 高品質なサービス・商品の提供と社会への情報発信

高品質なセキュリティサービスを提供するために、セキュリティシステムの研究開発から機器の製造、営業活動、設置工事、24時間監視、緊急対応、メンテナンスまでを、セコムグループで一貫して提供する「トータル・パッケージ・システム」という独自のサービス体制を構築しています。

お客様に、サービス・商品を正確にわかりやすくお伝えするのはもちろんのこと、Webサイトやパンフレットにおいても、比較しやすくわかりやすい情報発信に努めています。

### 「トータル・パッケージ・システム」とセコムの取り組み





セキュリティのプロを育成する集合研修



お客様満足度促進担当



「セコムお客様サービスセンター」

## プロフェッショナルな人財の育成

お客様とじかに接するセキュリティスタッフの知識と技能は、サービスの質や信頼に直結します。そこで、担当するスタッフによって対応が変わることなく均質なサービスが提供できるよう、しっかりとした判断力と行動力を身に付けさせるため、「セコムの理念」や安全のプロとしての知識や

技術をはじめ、実際の業務で想定される場面に応じた対応手順を定めた「システム行動」についての教育を徹底しています。この他にも、職種やスキルに応じた多様な教育プログラムを整備し、全国4カ所の研修センターで年間300コースを超える研修を実施しています。

## お客様とのコミュニケーション

お客様から寄せられるご意見やご要望をサービス・商品の改善のほか、研究・開発に活かしています。

### お客様満足度促進担当

サービス品質の向上を図るために、お客様訪問を専門とするスタッフを全国に配置。お客様を一件一件訪問し、役立つ情報の提供や、ご要望への素早い対応を行っています。「困ったとき」だけでなく、「日常的なおお客様の期

待」にお応えし、お客様の満足度向上に取り組んでいます。

### セコムお客様サービスセンター

システムやサービス、商品に対するさまざまなご要望やお問い合わせに電話でお応えしています。また、よりよいサービスを提供するために、お客様の立場に立った対応の教育、商品知識の教育などを行い、社員のスキルアップに努めています。

## 「お客様の声」は、サービス拡大の原動力

お客様からいただいたご意見・ご要望から、新サービス・新商品が生まれます。例えば、ホームセキュリティのご契約先からのご相談をきっかけに、生活支援サービスの「セコム・ホームサービス」が誕生しました。

そのほか、「セコム・マイドクタープラス」や、「セコム・ホームセキュリティ G-カスタム」のデータお預かり機能なども、お客様とのコミュニケーションから生まれました。

### セコム・ホームサービス

旅行中の郵便・新聞の保管やペットのエサやりなどの相談を多数いただいたことから、生活支援サービスの「セコム・ホームサービス」が誕生。突然のお困り

ごとや、家事サービス、住まい・家財のお手入れ、ECO(省エネ)サポートなど、幅広いサービスを提供しています。



### セコム・ホームセキュリティ G-カスタムのデータお預かり機能

東日本大震災時にいただいた声をもとに、家族や親せき、友人などの連絡先や健康保険証などの身分証明書、服用中のお薬の情報等さまざまな個人情報や、最高レベルの安全性を誇る「セキュアデータセンター」でお預かりする「データお預かり機能」を開発しました。



人権・労働慣行  
社会から信頼される企業として



部門別・職能別研修

# 社員とともに

社員一人ひとりが常に自分の意志で生き活きと働き、自己実現をしていくことが、結果として組織の発展につながる「組織の力は社員個々の力の総和」という考えのもと、人財育成に力を注ぐとともに、公正な評価制度を構築しています。また、人権を尊重する組織運営を徹底し、福利厚生制度の充実や労働安全衛生に取り組んでいます。

## 人事運営の基本理念

「社員の向上と会社の発展は一体不可分」という基本理念に基づき、人事運営をしています。

### ■ 研修・教育制度

社員の成長段階と職種に応じた独自の研修・教育体系を整備して、人財を育成しています。

#### 各種研修制度

		若手社員	中堅社員	幹部社員
OJT		実務を通じた業務知識・理念・スキルの習得		
業務	新人社員入社時研修	フォローアップ研修	中堅研修	幹部研修
		基礎研修	選抜研修	
営業	新人社員入社時研修	新任営業員研修	中堅営業員研修	幹部研修
		フォローアップ研修		
管理	新人社員入社時研修	各部署研修(法務、経理など)		
		管理部門担当者研修	補職者研修	
共通	新人社員入社時研修	各種e-ラーニング (情報セキュリティ、インサイダー防止、コンプライアンスなど)		
		新任事業所長研修	各部門責任者研修	
自己研鑽	新人社員入社時研修	社外セミナー、外部企業、団体への派遣		
		通信教育助成制度(受講料の80%相当額を助成)		
		海外留学制度(MBAなど)		

### ■ キャリア形成支援

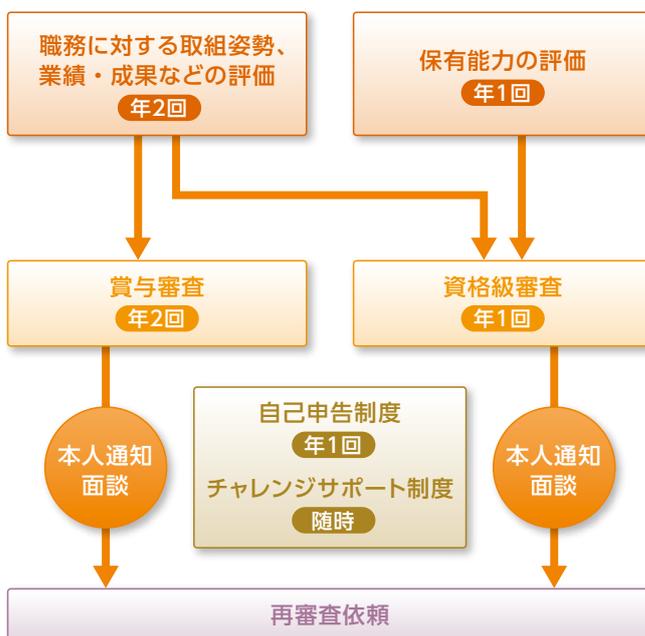
#### ～人事制度とキャリア形成支援～

「より努力し、能力を上げ、成果を発揮した社員にふさわしく報いる」ことを目的とし、「評価と育成」「透明性と公正さ」を重視した人事評価制度を構築しています。

社員自らが申告した業務・成果・反省点と、職務ごとに最適化された合理的な項目に基づき評価を行い、結果をそのつど社員に開示するオープンで公正なしくみです。また、評価は資格級や賞与審査のためだけに行うのではなく、評価結果や理由を本人に伝えることで、社員を育成することを目的としています。

さらに、自分の将来の目標や希望を上司に申告し、仕事を通じた自己実現の機会を得る「自己申告制度」や「チャレンジサポート制度」を構築しています。

#### 社員の努力を公正に評価し、自発的な成長を支援する人事システム



\*キャリア形成支援のための取り組みやワーク・ライフ・バランスに関する各種制度については、Webサイト「CSRの取り組み」の「社員とともに」をご参照ください。



心肺蘇生法 (CPR) の研修



男性社員との座談会 (女性の活躍推進委員会)



一般社団法人 企業アクセシビリティ・コンソーシアム

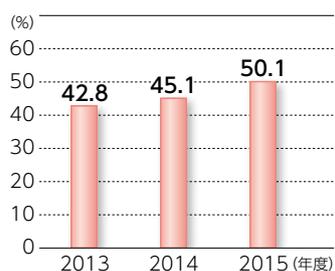
## ワーク・ライフ・バランスの推進

ライフステージにかかわらず、全社員が個々の能力を発揮し、生き活きと職務を遂行できるよう、ワーク・ライフ・バランス推進の方針を掲げ、仕事と家庭の両立を支援するための取り組みを行っています。

### ■ 休暇の取得推進

心身の休息、生活の充実があってこそ仕事への活力が生まれると考え、年間を通して自由な時期に取得できる柔軟な休暇制度「フレックス休暇 (毎年連続最長10日間と最長5日間)」や「リフレッシュ休暇 (10年ごとに2週間)」を設けるほか、有給休暇の取得推進も図っています。

年次有給休暇取得率の推移



### ■ SECOMライフサポート制度

仕事と家庭の両立支援のために、育児休業制度や介護休業制度を設けて、利用促進を図っています。また、個々の事情に応じた勤務地や就業形態を個別に検討し、長期的なキャリアアップを支援する「SECOMライフサポート制度」を開始しました。

育児休業取得者数



次世代認定マーク (愛称:くるみん)

## ダイバーシティの推進 ~ Diversity & Inclusion ~

多様な人財や価値観を取り入れ、それぞれが能力を発揮して価値創造に活かすことが重要であるとの考えのもと、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

### ■ 女性の活躍推進

社会全体で、女性が個々の能力を発揮し、さらに活躍するためには検討すべき課題が多くあると言われています。セコムでは、男女問わず全社員の意識改革を行うことが重要であると考え、「女性の活躍推進委員会」を中心に取り組みを加速させています。

### ■ シニア社員の活躍推進

一部の職種に50歳以上の社員が利用できる短時間勤務制度を設けているほか、勤務地域希望に柔軟に対応す

るなど、キャリアと知見を活かした職種への配置を積極的に行っています。

### ■ 障がい者の雇用促進、活躍推進

特例子会社\*のセコムビジネスプラス(株)を設立し、雇用を促進しています。また、ダイバーシティ基本方針に基づき、必要に応じて手話通訳者の手配や支援機器・ソフトを配置するなど、個別にきめ細かく対応しています。

さらに、障がいというダイバーシティを活かした新たな価値を創造し、企業の成長に資する新たな障がい者雇用モデルの確立などを目的とした一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアム (ACE) に参画しています。

\*特例子会社…障がい者の雇用を促進する目的で作る子会社のこと。



「明るい職場創造委員会」による事業所のリニューアル



「セキュリティドライビング」の徹底



「システム行動」に基づく外周点検

## 労働安全衛生への取り組み

すべての社員が心身ともに健康で、意欲と情熱を持って仕事に取り組めるよう、社員の健康維持・増進と安全で働きやすい職場づくりを実践しています。

### ■ マネジメント体制

「人事部」が「健康推進室」「セコム健康保険組合」と協力し、労働衛生管理体制の整備を進めるとともに、産業医療分野の経験が豊富な「統括産業医」と「地域産業医」が連携し、健康施策の推進とセコムグループ各社への助言や社員の健康指導を行っています。

また、全国で「衛生委員会」を毎月実施し、社員の安全・健康確保のための継続的な活動を推進しています。

### ■ 社員の健康管理・増進

社員とその家族の健康を守るために、毎年、社員の健康診断と成人健診を実施し、さらに健診結果から、通院や治療が必要と判断された社員には個別指導を行っています。

2015年度からは「セコム健康保険組合」と連携し、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）のリスクが高い社員の生活習慣見直しサポート「特定保健指導」を行っています。また、2016年度は、全社員参加型禁煙支援プログラム「セコム禁煙ナビ」を実施し、禁煙を決意した喫煙者に、禁煙補助剤を無償で配布するなど、社員の健康管理に積極的に取り組んでいます。

### ■ 長時間労働防止の取り組み

社会課題でもある長時間労働を防止するため、「人事部」と関連部門に専任の担当者を配置し、全国各地の責任者と連携して、継続的に時間管理と改善等の指導を行っています。

また、社内イントラネット上には、上司が社員の出退社時刻を日々把握・確認できるしくみを構築し、各職場においてもきめ細かい時間管



啓発ポスター

理と指導を行っています。

### ■ メンタルヘルスケア

「人事部」と「健康推進室」が連携し、厚生労働省の「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づいて「心の健康づくり計画」を作成し、法に基づくストレスチェックを実施するとともに、精神科医やEAPカウンセラー\*による面談・研修などを行っています。

\*EAPカウンセラー… (Employee Assistance Program) メンタル面における社員支援プログラムの専門カウンセラー。

### ■ セキュリティサービスでの取り組み

オンライン・セキュリティシステムや常駐警備、現金護送などのセキュリティサービスの労働安全衛生リスクを最小化するためのノウハウを蓄積した、独自の「システム行動」、「セキュリティドライビング」、「装備品の点検」などのしくみを構築し、社員の安全を確保しています。

さらに、高い技能を持つ社員の中から「セコムの理念」や「システム行動」を組織に浸透させる役割を担う「地域推進リーダー」を選抜し、地域ごとに配置。ヒューマンエラー撲滅活動も推進しています。

#### 安全運転推進室の設置

2016年9月、「安全運転推進室」を設置。車両事故・交通違反を撲滅し、地域社会の範となるよう、安全運転推進に取り組んでいます。





「セコムの理念」「セコムグループ社員行動規範」の研修



地域ごとに開催される、「セコム組織風土社員会議」



「セコム社員中央審議会」

## 人権の尊重

セコムの運営の基本方針である「運営基本10カ条」で、人権尊重の精神を示し、「セコムグループ社員行動規範」で具体的に遵守すべき行動基準を定めています。人権尊重の社員教育と組織運営を行うとともに、問題や悩みを匿名で相談できる「社員相談サイト」や「セクシャルハラス

メント相談窓口」を設け、事案把握と早期解決により社員を支援しています。また、バリューチェーン全体では、「セコムグループお取引先CSR推進ガイドライン<sup>\*</sup>」を発行し、お取引先とともに取り組んでいます。

<sup>\*</sup>「セコムグループお取引先CSR推進ガイドライン」については、31ページをご参照ください。

### 「運営基本10カ条」(抜粋)

- 社会は一人ひとりの人間によって構成される。セコムも同様に一人ひとりの社員によって構成される組織体である。いうまでもなく、一番重要なことは、社員一人ひとりが、生き活きと価値ある人生を送ることである。セコムの組織内にあってももちろんであるが、組織外であっても、人間尊重が基本であり、いかなる場合においても、いささかも人間の尊厳を傷つけてはならない。
- セコムは、すべてに関して礼節を重んずる。

## セコムライブラリーユニオンとのコミュニケーション ~活気ある健全な組織風土の醸成~

社員の士気を高め、活気ある健全な組織風土を築き、組織の活力を最大化するため、セコムライブラリーユニオン(セコム社員連合組合)と会社で意見交換を行っています。

### ■ セコムライブラリーユニオン

「社員の向上と会社の発展は、一体不可分である」との基本理念のもと、グループの健全な発展を思う社員有志により、会社設立2年後の1964年に設立され、社員が入社と同時に組合員となる「ユニオンショップ制度」を採用しています。グループ各社や都道府県ごとを基本に設置したブランチ(支部)で職場環境や日常業務の改善、労働安全衛生などを話し合い、「セコム組織風土社員会議」や「セコム社員中央審議会」を通じて、会社と協議をしています。

### ■ セコム組織風土社員会議

全国の地域ごとに毎月開催し、日頃の業務や職場環境の向上に向けて、会社の幹部と社員の代表であるセコム

ライブラリーユニオンの役員が、忌憚なく率直に議論し合う会議で、健全な組織風土の醸成に寄与しています。

### ■ セコム社員中央審議会

全国的な課題を意見交換する場として、「セコム社員中央審議会」を毎月開催しています。社長をはじめ人事・業務の担当役員・責任者とセコムライブラリーユニオンの中央審議会委員が参加します。また、この下部組織である「セコム社員中央審議会小委員会」では、人事・業務の担当役員・責任者とセコムライブラリーユニオンの幹部が、会社の施策や検討課題などについて、毎月定期的に協議しています。

#### 議題・テーマ

##### ● 人事体系

- 評価制度の適正運用
- ダイバーシティの推進
- 採用・人員配置 など

##### ● 労働安全衛生

- 超過勤務の状況
- 有給休暇、その他休暇の取得状況
- 受動喫煙対策 など



環境

社会から信頼される企業として



セコムグループ環境会議

# 地球環境とともに

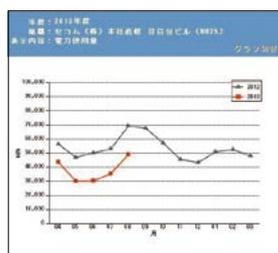
セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が、地球環境の保全であるという認識のもと、バリューチェーン全体で、地球温暖化防止、資源有効利用、生物多様性の保全などの地球環境保全に配慮した行動を実践しています。

※詳細な環境データについては、Webサイト「CSRの取り組み」の「CSRLレポートダウンロード」より「ESGデータ環境編」を、生物多様性保全については、「地球環境とともに」の「生物多様性保全への取り組み」をご参照ください。

## 環境マネジメント

「環境基本理念」と「環境基本方針」を定め、代表取締役社長を最高責任者、取締役 総務本部長をリーダーとして、「社会・環境推進部」が中心となり、環境マネジメントの運営、環境施策の立案と通知、監査など、グループ全体の環境保全活動を推進しています。

また、グループ会社では専門分野を活かした先進的な環境サービスを提供しています。



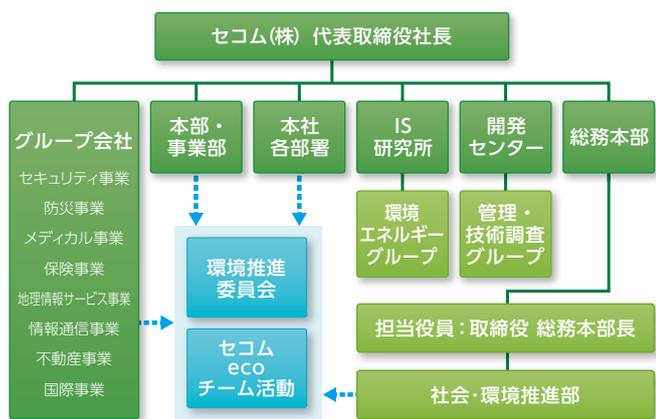
「環境保全推進システム」



「車両管理システム」

### 環境基本理念

セコムは「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念に基づき、セコムがめざす安全で快適な暮らしの基盤が地球環境の保全であるという認識のもとに、あらゆる事業活動において地球環境保全に配慮した行動をとります。



### 環境パフォーマンス管理

グループ各社を含む全国の事業所・拠点のエネルギー使用量を、イントラネット上に独自に構築した「環境保全推進システム」で“見える化”し、エネルギー使用量の削減を推進しています。また、車両ごとの燃料使用、走行距離、燃費などは「車両管理システム」で一元管理し、燃料使用量の削減を推進しています。

### セコムグループ環境会議

社会の動向を踏まえ、環境課題をグループ各社で確認し、対応を加速することを目的に毎年開催しています。

各事業セグメントの環境責任者・担当者が一堂に会し、各社の環境保全活動の取り組みと成果、中長期的な温室効果ガス排出の削減目標について意見交換を行っています。

この会議での議論を経て、2020年度までのセコムグループの車両の共通目標を決定しました。

※詳しくは、26ページの「ぐるまのエコ」をご参照ください。

- 環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証取得
  - セコム工業 (株) (1999年11月)
  - (株) 東光クリエート (1999年12月)
  - セコム (株) TEセンター (2000年12月)
  - 能美防災 (株) (2001年8月)
  - (株) パスコ (2003年2月)
  - (株) PASCO SPACE MAPPING TECHNOLOGY (2003年2月)
  - ニッタン (株) (2004年2月)
  - (株) アサヒセキュリティ (2008年12月)

- 環境法令の遵守 (省エネ法<sup>\*1</sup>、温対法<sup>\*2</sup>、自動車NOx・PM法、フロン排出抑制法<sup>\*3</sup>、廃棄物処理法<sup>\*4</sup>、各自治体の環境関係の条例 (東京都環境確保条例等))
  - 2015年度の違反や係争事案はありません。

\*1: エネルギーの使用の合理化等に関する法律  
 \*2: 地球温暖化対策の推進に関する法律  
 \*3: フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律  
 \*4: 廃棄物の処理及び清掃に関する法律



物流拠点のセコムFSセンター



「環境配慮設計」に基づく省エネ型コントローラー



回収機器の分別箱

## ⑧ サークュラー・エコノミー

資源の枯渇、増え続ける廃棄物などの世界的な環境課題に対応するため、欧州委員会は2015年に新しい循環型経済の構築をめざす戦略「サーキュラー・エコノミー」を打ち出しました。これは、リユースを容易にする設計の推奨、リサイクル率の向上などにより、資源の利用効率を高めることを目的とするもので、長年のセコムの取り組みと共通しています。

### ■ 「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデル

セコムが1966年に日本で初めて開発したオンライン・セキュリティサービスは、セキュリティ機器の開発・製造から取付・運用、回収・廃棄まで、機器のライフサイクルすべてをセコムグループ内で一元的に管理し、リサイクル率やエネルギー効率の向上を追求する「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデルを実現しています。

### ■ 資源の有効利用

機器の開発・設計を担当する「開発センター」では、省電力化、資源の有効利用、有害化学物質の不使用などを

定めた「環境配慮設計」を実践するため、サプライヤーの皆様約100社に「グリーン設計ガイドライン」を配布しています。その結果、製品の使用・廃棄に伴うCO<sub>2</sub>排出量を2015年度は約9,641トン\*削減することができました。

また、産業廃棄物の削減に継続的に取り組み、2015年度の排出量は約2,603トンで対前年度比4.7%の削減となりました。さらに、回収した機器の徹底した分別により、約693トンを有価物としてリサイクルし、資源を有効利用しています。

\*製品使用期間中に使用する電力の削減および減量化・減容化に伴う省資源化の効果についての当社試算

### 産業廃棄物量・有価物量 —セキュリティ事業グループ—



### オンライン・セキュリティシステムにおける「資源循環型」・「低炭素型」のビジネスモデル



### オンライン・セキュリティシステムのライフサイクルにおける環境配慮





エコ安全ドライブの実践



セコムの低燃費車



セキュリティドライビング研修

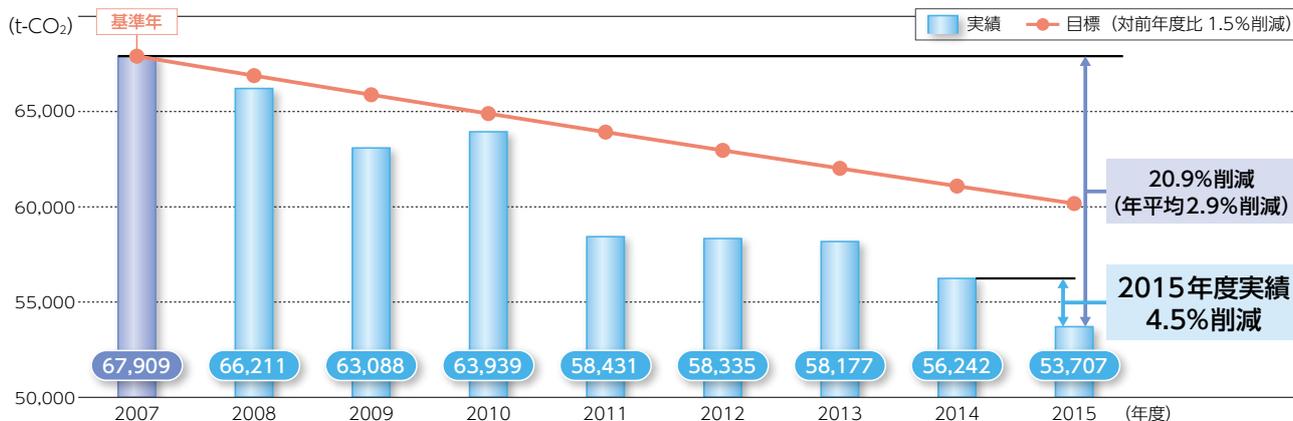
## 地球温暖化防止の取り組み

### 目標と実績

地球温暖化は、熱波や豪雨などの異常気象の多発、作物収量の悪化、海面上昇、生態系への悪影響などにより、社会全体の持続可能な発展を脅かすおそれがあります。そこで、セコムは2008年からCO<sub>2</sub>排出の削減をKPI（主要業績評価指標）として取り組み、2016年には、2030年の温室効果ガス排出を35%削減するという新たな中期目標を策定しました。さらに、2050年に向けてセコムグループ全体で温室効果ガス排出の80%削減をめざしています。

#### 短期目標と実績

**目標** セキュリティ事業グループのCO<sub>2</sub>排出を、2020年度まで毎年1.5%継続的に削減する。



※1：CO<sub>2</sub>排出量は、過年度の実績を含め、直近年度のCO<sub>2</sub>換算係数を用いて算出しています。

#### 中期目標と実績

**目標** セキュリティ事業グループの2030年度の温室効果ガス排出を、2013年度比で35%削減する。



※2：温室効果ガス排出量は、毎年報告年度のCO<sub>2</sub>換算係数を用いて算出しています。

● 日本政府は「地球温暖化対策計画」で、2030年度の温室効果ガス排出を2013年度比で26%削減することを目標としています。その目標の基礎としている部門ごとの削減目標を、セコムが使用するエネルギー構成に当てはめ、中期目標を決定しました。



LED照明化されたオフィス



セコムが協賛する「子どもエネルギーワズ選手権」



食の通信販売「セコムの食」—生物多様性保全の取り組み—

## 地球温暖化防止対策

セキュリティ事業では、多数の車両を使用しており、車両燃料に起因するCO<sub>2</sub>排出量が全体の半分を占めています。そこで、車両とオフィスそれぞれについて、ハードとソフトの両面から排出削減に取り組んでいます。

### くるまのエコ

『2020年度末までに、セコムグループのすべての四輪車両を「低燃費車」\*にする』ことをグループ各社の共通目標にして、使用状況に基づいたきめ細かい車両選定（ハード面）、教育・啓発による「エコ安全ドライブ」の推進（ソフト面）に、セコムグループ全体で取り組んでいます。

\*セコムの「低燃費車」とは、「平成32年度燃費基準」「平成27年度燃費基準」「平成22年度燃費基準+25%」のいずれかと、「平成17年排出ガス基準-75%」を合わせて達成した車両のことです。

#### ハード面の取り組み

- 車両を用途と仕様で20タイプに分類。環境性能や走行性能で候補車両を絞り、想定される走行距離やリース料を踏まえ、最適な車種を選定しています。



#### ソフト面の取り組み

- エコ安全ドライブコンテストの実施
- エコ安全ドライブポスター・ステッカーの貼付
- セキュリティ・ドライビング・トレーナーによる運転指導
- イン트라ネット上では、「低燃費車」導入状況や運転マニュアル、事業所の燃費向上状況を掲示



### オフィスのエコ

オフィスの電力使用量を削減するために、「エコロジーとエコノミーを両立する最適な省エネ機器の積極導入（ハード面）」と「全社的な節電・省エネ活動（ソフト面）」に取り組んでいます。

#### ハード面の取り組み

- コピー機、プリンター、FAX、スキャナーを複合機1台に交換
- LED照明への切り替え
- デスクトップPCのシンクライアント端末化
- 高効率空調機器への切り替え

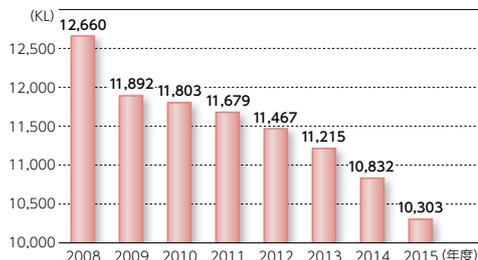
#### ソフト面の取り組み

- 「環境保全推進システム」による環境パフォーマンス管理
- 環境推進委員会（全国28カ所）による、オフィスの節電・省エネの取り組み

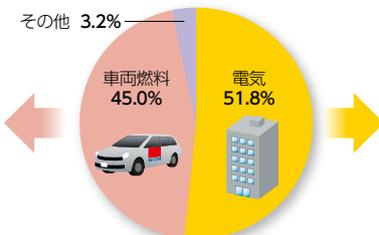
#### 節電・省エネ活動

- 「環境推進委員会」  
各事業所のエネルギー使用量の大幅な増減が発生した場合、原因の確認と、必要な是正措置を実施
- ガイドラインに基づく節電・省エネ運用  
建物や設備に応じた「省エネ活動手引書」  
空調・照明の「節電・省エネガイドライン」
- 「節電・省エネ点検」  
電気使用量が増える夏期・冬期の前に、全事業所で実施
- 環境教育  
環境保全意識の啓発と知識向上を図る「環境のホームページ」  
一人ひとりが環境保全に取り組む「セコムecoチーム活動」

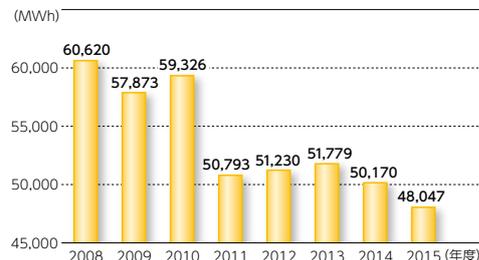
### 車両燃料使用量



### 2015年度 CO<sub>2</sub>排出量の内訳 —セキュリティ事業グループ—



### 電力使用量





コミュニティへの参画及びコミュニティの発展  
社会から信頼される企業として



セコムインドネシア(株)による「生活安全セミナー」

# 地域・社会とともに

「安全・安心」をさらに社会に広め、地域社会の発展に貢献することもセコムの使命と考え、子どもや女性、シニアに対する防犯意識の啓発を行っています。また、サイバー犯罪防止、次世代の育成支援、長距離競技やラグビーなどのスポーツ競技の発展への寄与などさまざまな社会貢献に取り組んでいます。

## 防犯意識の啓発活動

「安全・安心」のプロとしてのノウハウを活かし、さまざまな危険から身を守るための防犯教室・セミナーの開催やWebサイト、書籍を通じて、防犯意識の啓発を行っています。

### ■ 子どもに伝える「安全・安心」

独自に作成した教材を使い、社員が先生役となる「セコム子ども安全教室」を開催し、子どもとその保護者、学校関係者などを対象に、子どもが犯罪に巻き込まれないための授業を行っています。

また、安心子育て応援サイト「子どもの安全ブログ」や防犯絵本などを出版し、子どもの安全啓発を行っています。

### ■ 女性に伝える「安全・安心」

女性社員と「IS研究所」の研究員による「働く女性の安全委員会」では、女性のための防犯本の監修や防犯サイト「女性のためのあんしんライフnavi」の運営、防犯セミ

ナーなどを通じて、犯罪の実態と防犯対策を伝える啓発を行っています。

### ■ シニアに伝える「安全・安心」

超高齢社会の中で増える高齢者の方々の犯罪被害を防ぐために、長年にわたってサービスや商品を提供してきた安全のプロとして、高齢者向けの防犯・防災対策本の発行や、「安全・安心」な暮らしに役立つ情報サイト「おとなの安心倶楽部」の運営など、高齢者の方々が犯罪に巻き込まれないための取り組みを行っています。

### ■ 海外での防犯対策

インドネシアでは、日本とは大きく異なる環境下での安全対策として、現地ご契約先企業の日本人社員とご家族を対象に「生活安全セミナー」を開催しています。

また、東京では、海外勤務者の子どもたちが通う在外教育施設（日本人学校など）の職員の方々に対して、海外でのリスクマネジメントについての講演を実施しました。

## 社会の「安全・安心」に貢献する情報発信

防犯・防災のプロであるセコム社員による「子を持つ親の安全委員会」「働く女性の安全委員会」「シニアの安全を考える委員会」を設置し、専門知識を活かした防犯・防災などに役立つ情報を、安全教室・セミナーやWebサイト、SNS、書籍などさまざまな媒体を通じて発信しています。

### ■ 安全教室・セミナーの開催

- ・セコム子ども安全教室
- ・女性の防犯セミナー
- ・シニアの防犯セミナー ほか



### ■ 書籍など

- ・防犯絵本  
ストーリー展開型「白いおばけのすー」  
本格的な幼児向け「わたしをみて、おかあさん!」  
ハローキティの幼児向け「おやこで みにつく あんぜんえほん」シリーズ
- ・防犯のプロが教える「わが子を守る家族の安全マニュアル」
- ・セコム執筆「大切な子どもの守り方」
- ・防犯ニュースをお届けする「セコム新聞」



### ■ Webサイト

- ・子どもの安全ブログ
- ・女性のためのあんしんライフnavi
- ・おとなの安心倶楽部
- ・注目テーマを扱った特集セコム防犯ブログ
- ・セコム防犯・防災入門
- ・あなたの家の防犯診断
- ・子どもの防犯ブログチェック
- ・防犯女子度チェック
- ・鳥インフルエンザ対策サイト など



### ■ SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス） 「安全・安心」な生活に役立つ情報を発信

- facebook
- twitter
- YouTube
- 「セコムタウン」
- 「SECOM\_jp」
- 「SECOM TV」



大学生を対象としたインターンシップ



スーパーサイエンスハイスクールの特別講座



セコムラグッツの東日本大震災被災地でのラグビー教室

## 🏠 災害復旧支援活動 (株)パスコ

地球観測衛星や航空機などの最適な手法を使い、地理情報を収集する技術とその情報を解析する技術を駆使し、災害などによる地形の変化などの状況把握をいち早く行い、災害対策を実施する地方自治体や各省庁などの関係各機関にその情報を無償で提供しています。

### 2015年度以降の主な活動

- 地震 2015年4月 ネパール連邦民主共和国 地震災害
- 火山 2015年4月 蔵王山 火山活動モニタリング
- 火山 2015年5月 箱根山大涌谷 火山活動モニタリング
- 火山 2015年5月 口永良部島 火山活動モニタリング
- 火山 2015年6月 浅間山 火山活動モニタリング
- 火山 2015年8月 桜島 火山活動モニタリング
- 台風 2015年9月 台風18号豪雨災害
- 火山 2015年9月 阿蘇山火山活動モニタリング
- 地震 2016年4月 熊本地震災害
- 台風 2016年8月 台風10号豪雨災害



地球観測衛星「SPOT6&7」  
©Airbus Defence and Space



熊本地震災害  
(2016年4月 熊本県南阿蘇村)  
©Airbus DS 2016



台風10号豪雨災害  
(2016年8月 北海道富良野市)  
©Airbus DS 2016



台風18号豪雨災害  
(2015年9月 茨城県常総市)

## 🏠 次世代の育成支援

子どもたちが経済のしくみや社会とのかかわりを学び、働くことへの理解を深めることを目的として、地域社会やNPOと連携し、小学生を対象にした体験型実技演習プログラム「スチューデント・シティ」の運営や、高校生が企業で働く社員の影のようについてまわり、働くことを学ぶ

「ジョブシャドウ」の機会提供などを行っています。

また、2015年度からは、文部科学省が推進する次世代人材育成事業「スーパーサイエンスハイスクール」に参画し、理数教育に特に注力している中学校・高校が行う科学技術への関心を深める特別講座の開講に協力しています。

## 🏠 サイバー犯罪防止の取り組み セコムトラストシステムズ(株)

警視庁とサイバー犯罪の認知、被害防止などに関して相互協力を行う、共同対処協定を2013年6月に締結し、サイバー犯罪の被害実態の早期把握と、被害拡大防止に向け取り組んでいます。また、サイバー空間の脅威への対処経験などを蓄積・共有するとともに、警察による捜査

権限のより効果的な行使をはじめとする、脅威への先制的・包括的な対応を可能とした、サイバー犯罪対策組織である一般財団法人日本サイバー犯罪対策センターに参画しています。

お客様とともに

社員とともに

地球環境とともに

地域・社会とともに

コーポレート・ガバナンス



組織統治・公正な事業慣行  
社会から信頼される企業として



定時株主総会

# コーポレート・ガバナンス

ステークホルダーの皆様から、「価値ある企業」「信頼できる企業」として支持され続けるために、中長期的な企業価値・株主価値の最大化に努めるとともに、社会的な責任を果たし、かつ持続的な成長と発展を遂げていくことが重要であると認識し、取り組んでいます。

## コーポレート・ガバナンス体制

セコムグループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の極めて重要な課題であると位置づけ、「社業を通じ、社会に貢献する」という企業理念の実現と、企業価値の向上のために、事業活動を律する枠組みとして、コーポレート・ガバナンス体制を整備しています。

具体的には、コーポレートガバナンス・コードを踏まえ、トップマネジメントのイニシアチブのもと、社外取締役および社外監査役によるステークホルダーの皆様の利害に

配慮した経営に対する独立監督機能および業務執行の適正保持機能を活用しつつ、情報開示の徹底、コンプライアンス体制の強化等に積極的に取り組んでいます。

さらに、ディスクロージャーポリシー\*を掲げて、正確・公正・迅速な情報開示に努めるとともに、セコムに対する理解を深めていただくために積極的に情報開示を行っていきます。

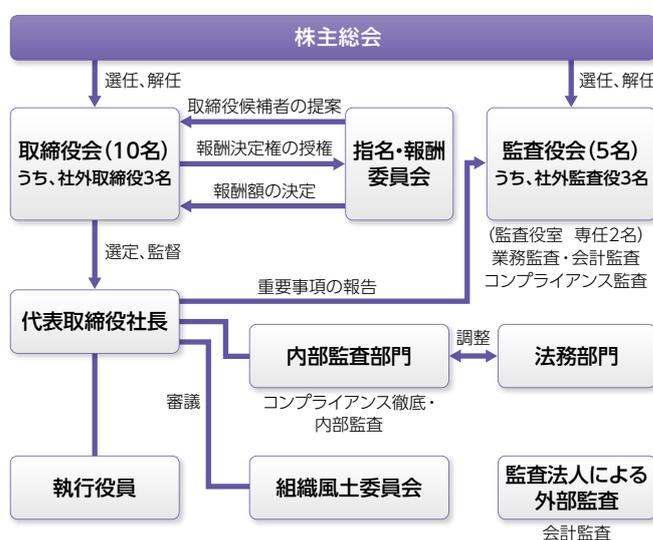
\*ディスクロージャーポリシー…経営上の重要な情報を開示する方針のこと。

### 近年の主な取り組み

2006年	内部統制システムの構築
2006年	セコムグループ企業経営基本規程の制定
2007年	プライバシーポリシー制定
2008年	ディスクロージャーポリシー制定
2008年	内部統制報告制度への対応
2010年	ALL SECOMの宣言(グループ連携と総合力の発揮)
2010年	セコムグループ経営会議の設置(運営理念の共有化)
2013年	社外取締役設置(2名)
2013年	CSRレポート発行(以後毎年)
2014年	インサイダー取引の防止に関する規定の制定
2016年	指名・報酬委員会の設置
2016年	社外取締役増員(3名)

### 企業統治の体制

(2016年6月24日)



## コンプライアンス

お客様の生命・財産を第三者の不法・不正行為から守るセキュリティ事業を行う上で何よりも重要なのは、社員一人ひとりが、誠実に業務を遂行し、お客様や社会からの信頼を得ることです。

近年、コンプライアンスが厳しく求められるようになりましたが、セコムは創業以来、日本国憲法および関係法規

に従うだけでなく、法の精神も遵守することが重要であると考え、社員のあるべき姿およびあらゆる業務の根底にあるコンプライアンスに関する考え方を示した「セコムグループ社員行動規範」を制定し、さまざまな機会を通じて一人ひとりの社員に徹底させています。



ヘリによる大規模災害時の緊急支援活動



有事に備えた訓練の実施



環境コミュニケーション大賞表彰式

第19回 環境コミュニケーション大賞 表彰式  
主催：環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム

## 目 リスクマネジメント体制

リスクマネジメントがセコムの事業そのものであると捉え、日々の事業活動にリスクマネジメントを組み込んでいきます。

具体的には、担当役員は代表取締役社長の統轄のもと自己の担当する事業分野について事業リスクおよび不正リスクを分析・評価し、内規および各種マニュアルを策定。なお、内規・各種マニュアルには、日常的なリスクモニタリング制度に加え、リスクの分析と評価に基づく予防策や有事の際の迅速かつ適切な情報伝達と緊急態勢などが含まれており、環境変化の都度修正しています。

### ■ 情報セキュリティとプライバシー保護

個人情報をはじめとするお客様情報の管理は、経営の根幹を成すものとして最重要視し、強固な情報セキュ



リティシステムを構築するとともに、運用しています。毎年全社員を対象にe-ラーニングと確認テストを行って基本事項やルールの徹底を図るとともに、個人情報の取り扱い、データの管理、整理整頓や出入管理の点検などが確実に行われているか、「組織指導部」が全事業所の定期的な監査を実施しています。

### ■ BCP (事業継続計画)

24時間365日、間断なく「安全・安心」を提供するために、地震、台風などの大規模災害、広域停電、新型インフルエンザの大流行などの際にも、事業を継続できるように体制および諸規則を定め、設備やシステムを整備しています。また、社員一人ひとりが災害発生時に適切な行動ができるように、避難訓練をはじめ、日頃からさまざまな場面を想定した訓練を行っています。

## 目 ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション

社会からの情報開示の要請にお応えし、説明責任を果たすため、CSRレポートやWebサイト、評価機関からの調査票などを通じ、ESG情報の開示を拡充しています。

また、ステークホルダーの皆様からいただいたご意見は、関連部門へフィードバックするなどし、取り組みに活かしていきます。

### ■ 環境省「環境情報開示基盤整備事業」へ参画

企業の環境保全活動促進と、その取り組みや成果を踏まえた投資を活性化することを目的とする開示システムを検討する環境省の試行事業に、初年度から4年連続で参画しています。

### ■ 「第19回環境コミュニケーション大賞」の「優良賞」を受賞

優れた環境報告書や環境活動レポートなどを表彰する環境省主催の「環境コミュニケーション大賞」で、「CSRレポート2015」が「優良賞」を受賞しました。これは、環境配慮型のビジネスモデルやサプライチェーン全体のCO<sub>2</sub>排出量把握、詳細なESGデータ開示などが評価された結果で、2年連続の入賞となりました。



お客様とともに

社員とともに

地球環境とともに

地域・社会とともに

コーポレート・ガバナンス



2015年度「海外責任者会議」



2016年「全国安全衛生大会」

## 目 お取引先とともに

高品質なサービス・商品を提供するためには、さまざまなサプライヤーの皆様が不可欠です。相互理解と法令遵守の精神を重要視し、強固なパートナーシップを築くとともに、人権尊重、労働安全衛生、環境保全などのCSR課題へバリューチェーン全体で取り組んでいます。

### ■ 「セコムグループお取引先CSR推進ガイドライン」～CSR調達～

社会的責任に関する国際規格であるISO26000の中核主題などへの取り組み状況の把握を目的に「サプライヤーCSR調査」を2013年に実施しました。さらに、バリューチェーン全体でCSRの共通認識を持ち、対応を推進するために、「セコムグループお取引先CSR推進ガイドライン」を制定し、2016年9月には主要なお取引先に配布し、取

り組みを要請しました。

また、海外グループ企業のマネジメント層に対して、各国の法令遵守や、賄賂の禁止、情報管理など、コンプライアンスについてのさまざまな研修教育を行い、お取引先との公正で健全なパートナーシップの構築に努めています。

### ■ テクノ事業本部と協力会社の取り組み

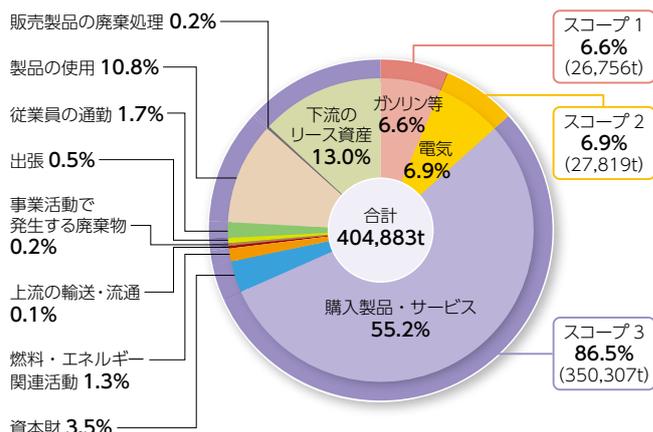
「テクノ事業本部」では、セキュリティシステムの工事や建物の設備点検、予防保全・改修提案を行うファシリティマネジメント業務に携わる協力会社の皆様とともにコンプライアンスの強化、労働安全衛生などに取り組んでいます。

### ■ 地球温暖化防止対策

#### ～スコープ3の算定と温室効果ガス削減～

バリューチェーン全体での基礎情報として活用するため、セキュリティ機器の製造過程や使用時など、社外で間接的に発生する温室効果ガス排出量（スコープ3）を算定しています。地球温暖化防止活動に対する理解が深まり、年々算定に参加する企業数が増えるとともに、算定精度が向上し、排出削減も進んでいます。

#### バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量 ーセキュリティ事業グループー



#### ガイドラインの掲載内容

- **法令遵守**…… 法令・社会規範遵守（日本及び各国・地域）、輸出入取引
- **組織統治**…… 情報セキュリティ、個人情報保護、情報開示、危機管理、不正行為、通報窓口・通報者保護、インサイダー取引
- **人権・労働**…… 人権尊重、差別禁止、多様性の受容、団結権・団体交渉権、児童・強制労働、労働条件、ハラスメント、安全衛生・健康管理、紛争鉱物
- **環境保全**…… 温暖化防止、資源有効利用、汚染防止、化学物質管理、廃棄物、生物多様性、環境目標
- **事業慣行**…… 腐敗防止、収賄・贈賄、過剰な接待・贈答、競争ルール・公正取引、強要、知的財産権、反社会的勢力
- **消費者課題**…… 品質管理、安全性、適正表記・情報開示

# セコムのCSRに期待すること

## ■ 企業に求める社会貢献

私もこれまで幾つかの企業で働く都度、企業のCSRについて考えてきました。企業の最大の社会貢献とは、まず、本来の事業活動で堂々たる収益をあげて税金を払い、従業員にふさわしい給与を支払い、その他ステークホルダーも満足できるように活動していくことにあると考えています。日本経済の現状の低成長の中で、第三の矢を含め政府に期待すべきことがあるのは事実ですが、経済活動の主要は、あくまでも民間企業です。技術開発、新製品・新サービスの提供、新しいビジネスモデルの導入などが成長の最大の原動力であり、このことは立派な社会貢献です。

企業はそれ以外にも、社会貢献の役割を担っています。私の関係している東京オリンピックは、国や都などに加え、民間企業の多大なサポートがあってこそ2020年に立派な開催が可能になります。多くの企業がCSR活動の一つとしてとらえていただいていることに感謝しています。

## ■ セコムならではの取り組みに期待

CSR活動の面で、セコムはある意味、特殊な会社では

ないでしょうか。それは、社会の、「安全・安心」という最も基本的な価値を守ることが本来の仕事であり、本業で社会に明示的に貢献していくことが期待されているからです。それだけに、役員や社員の皆さんには、いわゆる「社会的責任」という概念よりも重い責任がかかる可能性があります。これに応えていただきたいものです。

また、セコムとしては、多数の車両や今後も規模拡大が見込まれるデータセンターにおいて、エネルギー使用の合理化やCO<sub>2</sub>の排出削減への取り組みを続けていくことが課題です。時折話題となる正規・非正規雇用のバランスなどにも配慮する必要があります。さらに、このところ日本は数々の自然災害に見舞われていますが、こうした際にセコムならではの取り組みがあると思います。

## 社外取締役 河野 博文

(非常勤・独立役員)

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構  
特別顧問



## ■ 社会インフラを支える企業として

セコムの事業領域はとて広く、社外取締役に就任してから知った事業がたくさんあります。社会のニーズを的確に捉えて新しいサービスを提供するクリエイティブな会社で、革新性・創造性に優れていると思います。

セコムの事業はすでに必要不可欠な社会インフラとなっています。私が代表を務める渡辺パイプ(株)も全国ネットワークの流通体制を構築し、災害時には緊急資材の提供を行う協定を全国自治体と締結しています。インフラを支える企業としての責任と自負を持って取り組んでいる点においては、共通点を感じております。

## ■ 社員一人ひとりの力が、会社の成長につながる

社員に「自社の事業の社会的価値」や「一人ひとりの仕事が社会に役立っていること」をしっかりと伝え、社員が理解し、意識するようになれば会社は成長します。

セコムも、お客様の鍵を預かるという重い責任を果たすために、行動規範などの規則やルール、モラルを重視し、手間をかけて教育して士気の高揚を図っています。組織

が大きく大変なことでありますが、信頼構築のためには欠かすことはできないでしょう。

## ■ 持続的に成長し続けるために

会社の売り上げや利益は、社会から評価された結果です。評価されるためには、現在の業界トップという地位に慢心せず挑み続けなければなりません。社会の課題を見だし、セコムの多岐にわたるグループの事業領域を基盤としていろいろなサービスを提供すること、そのためには、セコムのクリエイティブなDNAを引き継いでいくことが大切です。

セコムグループの総合力を活かして、社会が必要とする新たなサービス・商品を創造し、より一層成長することを期待しています。

## 社外取締役 渡邊 元

(非常勤・独立役員)

渡辺パイプ(株) 代表取締役社長



# セコムグループの概要

## セコム株式会社 会社概要

- 会社名 ▶ セコム株式会社 SECOM CO., LTD.
- 本社所在地 ▶ 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前一丁目5番1号
- 設立年月日 ▶ 1962年(昭和37年)7月7日
- 創業者 ▶ 取締役最高顧問 飯田 亮
- 代表者 ▶ 代表取締役社長 中山 泰男
- 資本金 ▶ 663億円(2016年3月31日)
- 上 場 ▶ 東証一部
- グループ社員総数 ▶ 57,957名(2016年3月31日)
- 連結決算 ▶ 売上高 8,810億2,800万円(2016年3月期)
- 経常利益 1,348億2,600万円(同上)
- 当期純利益 770億3,900万円(同上)



東京・原宿にあるセコム本社ビル

## 主なグループ企業

### ●セキュリティ事業

- セコム株式会社
- セコム上信越株式会社
- セコム北陸株式会社
- セコム山梨株式会社
- セコム三重株式会社
- セコム山陰株式会社
- セコム高知株式会社
- セコム宮崎株式会社
- セコム琉球株式会社
- 株式会社アサヒセキュリティ
- 東洋テック株式会社
- セコムジャスティック株式会社
- セコムスタティック北海道株式会社
- セコムスタティック東北株式会社
- セコムスタティック関西株式会社
- セコムスタティック西日本株式会社
- セコムジャスティック上信越株式会社
- 福岡流通警備保障株式会社
- JR九州セコム株式会社
- 株式会社エリアサービス
- 日本安全警備株式会社
- 株式会社日本緊急通報サービス
- 名鉄セコム株式会社
- 株式会社メリアン

- セコムウィン株式会社
- セコム工業株式会社
- 日本原子力防護システム株式会社
- オーテック電子株式会社
- クマリフト株式会社
- セコムアルファ株式会社
- 社会復帰サポート美祢株式会社
- セコム美祢セキュリティ株式会社
- 社会復帰サポート喜連川株式会社
- セコム喜連川セキュリティ株式会社
- ホームライフ管理株式会社

### ●防災事業

- 能美防災株式会社
- ニッタン株式会社

### ●メディカル事業

- セコム医療システム株式会社
- セコムフォート株式会社
- セコムフォートウエスト株式会社
- 株式会社プライムステージ
- セコムフォート多摩株式会社
- 株式会社アライブメディケア
- 株式会社マック
- セコムメディファーマ株式会社

### ●保険事業

- セコム損害保険株式会社
- セコム保険サービス株式会社

### ●地理情報サービス事業

- 株式会社パスコ

### ●情報通信事業

- セコムトラストシステムズ株式会社
- 株式会社アット東京

### ●不動産事業

- セコムホームライフ株式会社
- 株式会社荒井商店

### ●国際事業

- 中興保全股份有限公司(台湾)
- 株式会社エスワン(韓国)
- 西科姆中国有限公司
- 大連西科姆電子安全有限公司
- 上海西科姆保安服務有限公司
- 北京京盾西科姆電子安全有限公司
- 青島西科姆電子安全有限公司
- 広東金鵬西科姆電子安全有限公司
- 福建西科姆電子安全有限公司

- 陝西西科姆電子安全有限公司
- 四川西科姆電子安全有限公司
- 浙江西科姆安防系統科技有限公司
- 遼寧西科姆安全防犯有限公司
- 西科姆津盾天津安全防犯有限公司
- 西科姆天津物業管理有限公司
- 上海能美西科姆消防設備有限公司
- タイセコムセキュリティ株式会社
- セコムマレーシア株式会社
- セコムシンガポール株式会社
- セコムインドネシア株式会社
- セコムパヤンカラ株式会社(インドネシア)
- セコムベトナムセキュリティサービス株式会社
- ミャンマーセコム株式会社
- セコムPLC(英国)
- セコムオーストラリア株式会社
- セコムガードオールNZ株式会社(ニュージーランド)
- ウェステック・セキュリティ・グループInc.(米国)

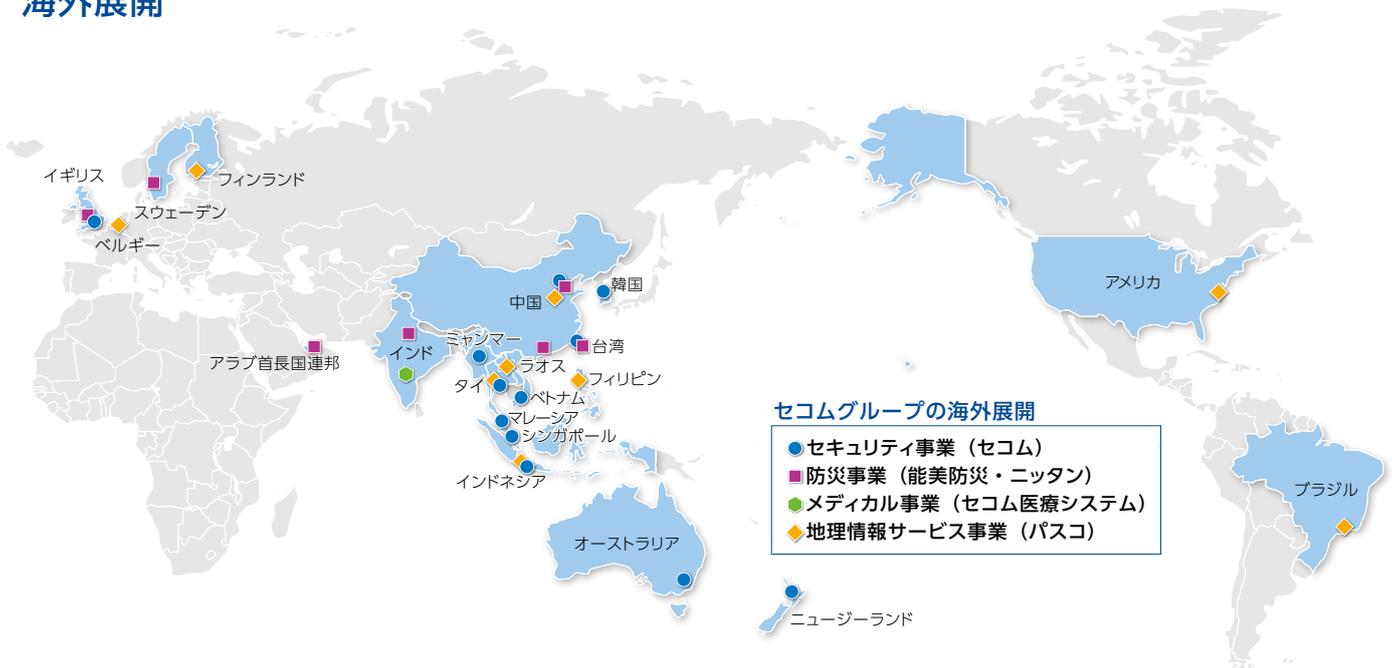
(公財)セコム科学技術振興財団

1979年3月、創業者・飯田亮の拠出資金を基本財産として設立。安全を中心とする科学技術の研究開発の助成、普及啓発、情報交流などを通じて、科学技術の振興をはかり、社会の真の安全化をめざしています。

●本レポートで、「セキュリティ事業グループ」と表示している場合は右記26社です。また、「セコム」「セコムグループ」と表示している場合は他の事業会社を含めています。

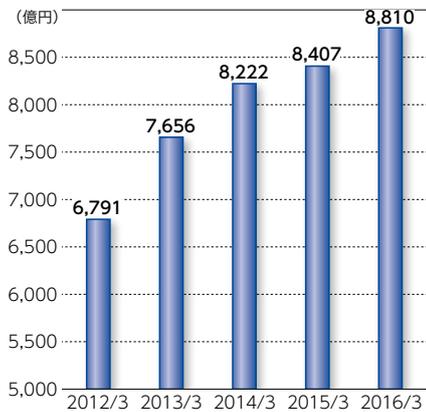
- |           |                 |                  |                 |
|-----------|-----------------|------------------|-----------------|
| セコム(株)    | セコム宮崎(株)        | セコムスタティック西日本(株)  | セコムジャスティック宮崎(株) |
| セコム上信越(株) | セコム琉球(株)        | セコムスタティック琉球(株)   | セコムテクノ上信越(株)    |
| セコム北陸(株)  | セコム佐渡(株)        | セコムジャスティック上信越(株) | セコムテック山陰(株)     |
| セコム山梨(株)  | セコムジャスティック(株)   | セコムジャスティック北陸(株)  | セコム工業(株)        |
| セコム三重(株)  | セコムスタティック北海道(株) | セコムジャスティック山梨(株)  | セコムアルファ(株)      |
| セコム山陰(株)  | セコムスタティック東北(株)  | セコムジャスティック山陰(株)  |                 |
| セコム高知(株)  | セコムスタティック関西(株)  | セコムジャスティック高知(株)  |                 |

## 海外展開



## 連結決算 業績ハイライト

### ▼ 売上高

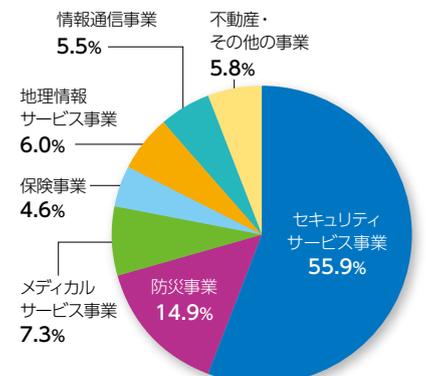


### ▼ 事業別売上高内訳 2016年3月期

(単位: 億円)

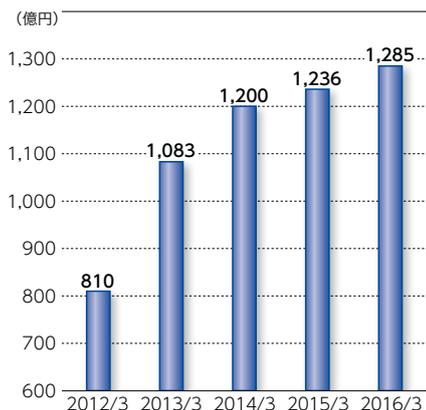
売上高*	2015年3月期	2016年3月期
セキュリティサービス事業	4,688	4,928
防災事業	1,211	1,317
メディカルサービス事業	601	640
保険事業	377	401
地理情報サービス事業	527	525
情報通信事業	477	484
不動産・その他の事業	522	511
連結売上高	8,407	8,810

\*セグメント間取引を除く

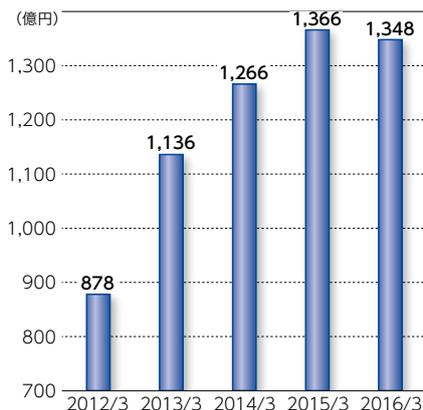


\*セグメント間取引を除く

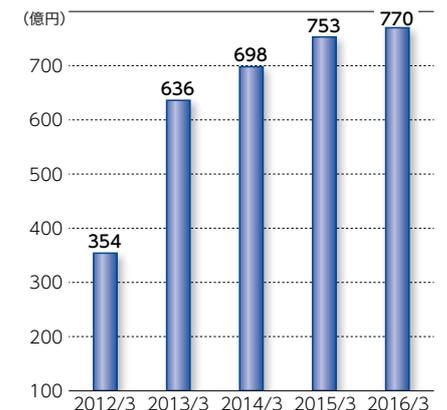
### ▼ 営業利益



### ▼ 経常利益



### ▼ 当期純利益



信頼される安心を、社会へ。

**SECOM**

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1  
<http://www.secom.co.jp/>